

三井物産 DX案件紹介資料

2025年12月

三井物産株式会社
デジタル総合戦略部

産業系DX

デジタルツイン

ブラジル沖合鉱区開発プロジェクト用FPSO(*)

- ◆ IoTでオペレーションデータ集積
トップサイド（原油・ガス生産設備）のデジタルツイン構築

→ ダウンタイムを最大約65%削減

- ◆ 2020年1月、第4次産業革命をリードする
世界で最も先進的な工場「Lighthouse（灯台=指針）」に認定
@世界経済フォーラム（WEF）

- ◆ AI故障予知サービス / CBM(Condition Based Maintenance) /
リスク可視化&要因・影響度分析サービス / 脱炭素可視化&分析
(R&D中)を提供する「Shape」をシンガポール&ブラジル(リオデジャネイロ)に設立

→ マイクロソフト、マッキンゼーとも協業

→ FPSOを始めとする石油・ガス業界のみならず、電力、
金属資源・鉄鋼、化学品、製紙業界にも提供予定



提供：三井海洋開発株式会社

産業関連[Animoca Brands社への出資及び戦略的パートナーシップ]



web3/ブロックチェーン

- ◆2023年6月にweb3業界最大手Animoca Brandsとの資本業務提携および戦略的パートナーシップ締結を実行。
- ◆web3は、改ざんが極めて困難で誰もが参照可能なパブリックブロックチェーン技術に応用した分散型次世代インターネットであり、日本政府や経団連も注目する産業。
- ◆Animoca Brandsは、香港に事業拠点を置き、web3の基盤技術からブロックチェーンゲームなど幅広く事業を展開。500社以上に投資を実行し独自のエコシステムを構築する世界有数のweb3リーディングカンパニー。
- ◆本提携を通じ、当社は主に日本国内におけるweb3の普及とイノベーションに寄与する新たなビジネス創出を目指している。



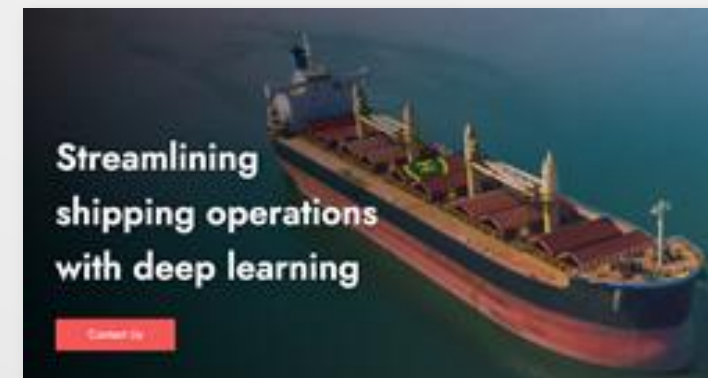
The Sandbox:
メタバースを舞台にしたブロックチェーンゲーム



Mocaverse:
Animocaグループの共通ID・ロイヤリティプログラム

船舶運航最適化

- ◆ AIの世界的権威Andrew Ng教授が設立するAI Fundと「BEARING.ai」を設立。
- ◆ 船舶航行の過去データ並びにIoT機器から収集したデータを活用し、AI Fundが深層学習アルゴリズムを開発、燃料消費予測モデルを構築し、従来より高い精度を確認。
- ◆ 海上輸送コストの約半分・全世界消費10兆円/年の燃料費効率化、船舶からのGHG排出量を削減。
- ◆ Forbesが選ぶ注目すべきAI企業である「AI50 2021」。
また、CB Insightsが選ぶ「Top 100 AI 2022」にも選定。
- ◆ 川崎汽船が既に中核運航船隊約300隻に商用導入し、飯野海運も導入中。

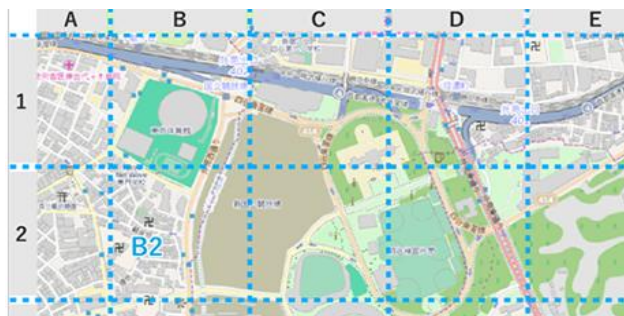


都市シミュレーター技術

- ◆ 三井物産とKDDIが、2022年5月に地理空間上の情報をAI分析・可視化ができるデータプラットフォームの提供を行うGEOTRAを設立。
- ◆ GPS位置情報とモデリング技術を活用した、人流の移動・行動実態などを可視化、高粒度人流データを生成。
- ◆ データ上から課題整理、外部データとのクロス分析などを通じたアナリティクス、コンサルティングを実施することで、データを活用した社会実証実験やマーケティング施策への落とし込みなど、幅広い事業顧客へのサービスを展開中。

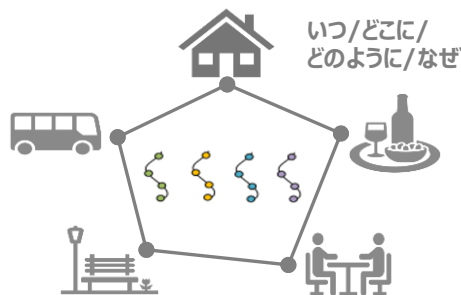
位置情報データ

位置情報データを収集



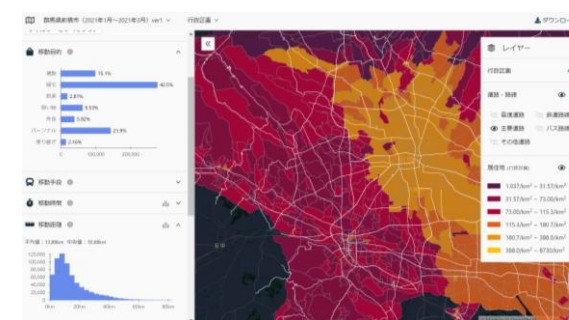
機械学習技術

生活者の行動パターンを学習



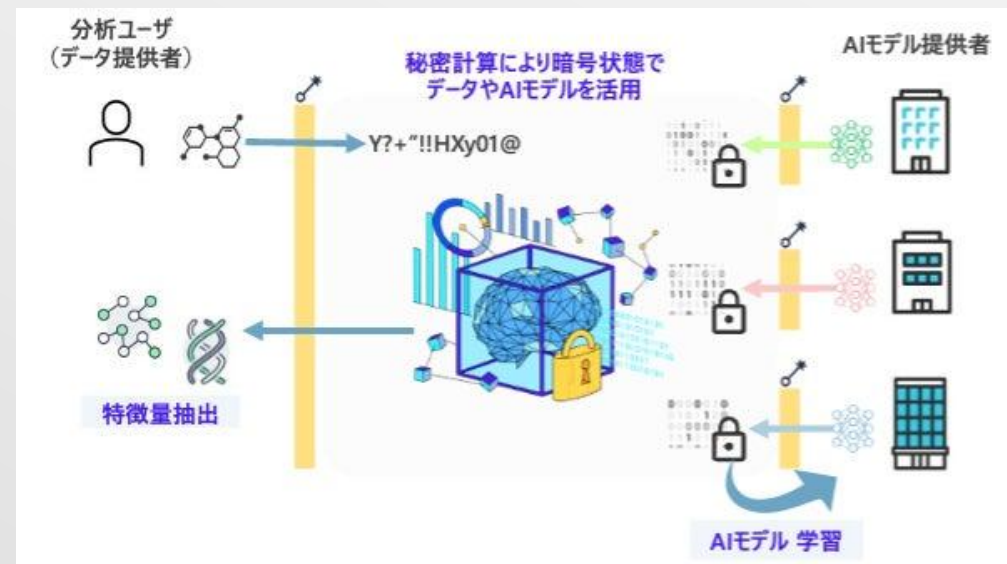
仮想人流データ

仮想的な人流データを可視化



秘密計算

- ◆ DX/データ利活用のボトルネックである「機密情報・個人情報の共有」を解決するべく「**秘密計算**」に着目。
- ◆ 2021年にEAGLYS社と共同でマテリアルズインフォマティクスや創薬AI向けのPoC(概念実証)を実施。
- ◆ 2023年以降、サプライチェーン横断でのデータ連携課題のある化学品業界にターゲットを絞り、PoC(概念実証)を推進中。



EAGLYS社と開発した秘密計算プラットフォームの概念図

産業関連 [PORTEK社傘下尼国子会社DHUでのDXを活用したコンテナターミナル運用のDX]

PORTEK
Knowledge & Solutions in Port Business



コンテナターミナル運営のデジタル化

- ◆ インドネシア最大タンジュンプリオク港に位置する国内貨物向けコンテナターミナル (DHU)
- ◆ 年々取扱量が増加する物流事業において、特に中小港湾ターミナルの物理的な拡張余地が限られる中、オペレーション効率化が喫緊の課題
- ◆ DX Phase1
 - ・ 岸壁クレーンオペレーションでのペーパーレス化：書類準備・作成の時間を月774時間短縮可能
 - ・ 港湾内自社トラックの効率活用：情報収集・モニタリング・ルートの提案等で月72時間作業時間を短縮可能
 - ・ 岸壁クレーンの遠隔リアルタイムモニタリング：CMMS導入によりメンテナンスにかかる時間を10%(120時間/年)削減可能
- ◆ DX Phase2
 - ・ トラックの効率活用強化・分析によるメンテナンス最適化
 - ・ ヤード側クレーンのデータ収集・メンテナンス最適化
 - ・ 岸壁・ヤード両クレーンの貨物取扱情報収集・分析及び活用による予知保全機能の追加
 - ・ Spare parts management機能追加
- ◆ システム開発・活用によるDHUでの業務効率化にとどまらず、インドネシア国内外東南アジアを中心とした港他ターミナル運用会社への外販を目指す



産業関連[Data Driven Initiative at Container Terminal]

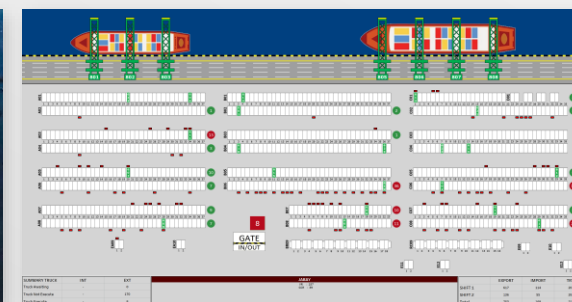
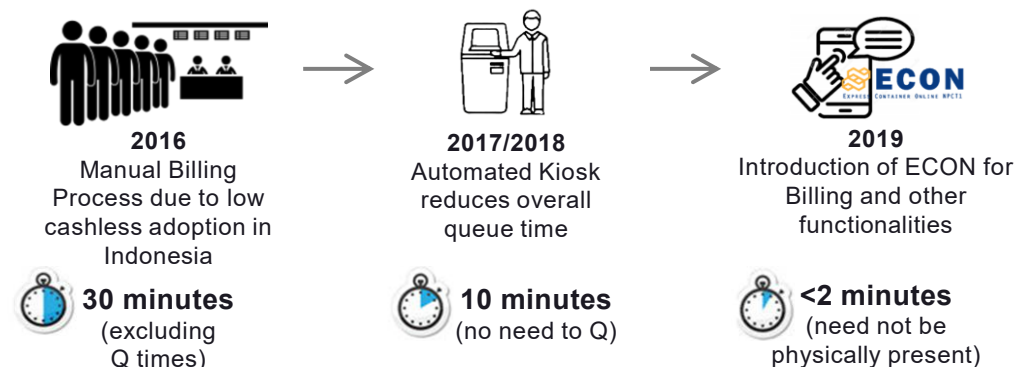


コンテナターミナル運営のデジタル化

- ◆ 約700人/日のターミナル利用料金収受を行う支払センター業務のオンライン化を促進。NPCT1にてシステム（Express Container Online NPCT1、通称ECON）を自社開発。
- ◆ 構内のプロット毎の混雑度合いとターミナルに出入りする車両の待ち台数を見える化するため、データ分析プラットフォームTableauを導入済。
- ◆ 同一トラックが、1回の輸送において、輸出入コンテナ両方の貨物を搬入・搬出する“Dual Cycle”を推進するため、トラックプラットフォームやフォワーダーとのトライアルを実施中。
- ◆ オペレーションの効率化、顧客利便性向上を目指しDXに取り組中。



NPCT1's Billing Evolution



NPCT1はECONを活用したDX取組が評価され、港湾局よりデジタル化大賞2022を受賞（2023年1月22日）

量子コンピューティング

- ◆ 2040年に100兆円規模の価値創出が予測され、次世代デジタル技術と期待される量子コンピューティング取組に注力。
- ◆ 2024年1月、イオントラップ型量子コンピュータ企業米Quantinuumに、米JPMorgan Chase、米Honeywell、米Amgenと共同で出資参画。また当社とQuantinuumは、日本・アジア大洋州における販売代理店契約を締結。
- ◆ 2024年11月、QuantinuumとNECの3社共同で「量子トークン」の実証実験に世界で初めて成功、5年以内を目途に事業化を推進
- ◆ 2025年8月、創薬や材料開発の高速化を目指す量子・古典ハイブリッドプラットフォーム「QIDO」を提供開始



Quantinuumの新型量子コンピュータ「HELIOS」

[トピックス | 量子技術を利用した「量子トークン」の実証実験に世界で初めて成功\(mitsui.com\)](#)

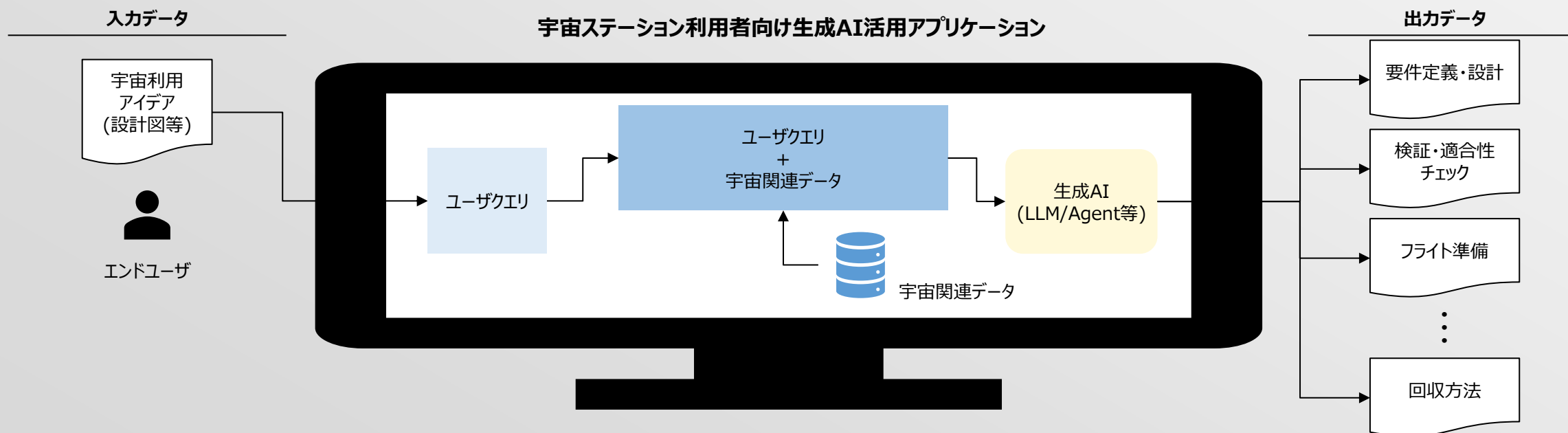
[トピックス | 創薬や材料開発の高速化を目指す量子・古典ハイブリッドプラットフォーム「QIDO」を提供開始\(mitsui.com\)](#)



量子・古典ハイブリッドプラットフォーム「QIDO」

生成AIが実現する“オープンな宇宙ステーション時代”

- ◆ 米・露・加・日・欧州の15ヶ国が運用するISSは2030年に退役し、それ以降(ポストISS)は民間主体の事業運営に移行予定。
- ◆ 宇宙ステーション利用に伴う宇宙環境の制約条件に合わせたミッション計画策定という専門性の高いプロセスを、生成AIにより自動化し、誰もが使いやすい宇宙ステーションを実現することで、ポストISS時代における事業展開を目指す企業やエンドユーザーの拡大を図る。



脱炭素・エシカル系DX

CO₂の家計消費削減に貢献するプラットフォーム

企業の悩み

必要性は理解、どこから手を付けてよいかわからない。

生活者意識

脱炭素アクションを起こす準備はあるが、情報不足。

貢献実感の「見える化×自分ごと化機能」の実装をデコに、生活者の脱炭素アクション促進

商品/サービスのCO₂排出量を
削減率(%off)で可視化するスコア

デカボスコア



「●●%off」という身近で欲望を刺激しやすい新指標

流通・小売事業者と連携し
“デカボ商品”を紹介する棚作り



産地直産品店でのデカボ棚 & デカボスコアクイズ

Z世代を中心とした、共創型
コミュニティの運営

企業とコラボした共創型イベント



脱炭素に取り組む企業や商品を応援したり、
アイデアを提案できるコミュニティ・イベント

脱炭素・エシカル関連^["脱炭素ソリューションサイト「Green & Circular」"]^["日"]

脱炭素 x デジタルマーケティング

- ◆ 脱炭素に関する一般情報や世界の動向に加え、当社ソリューションの開発経緯や顧客事例も提供し、多数のアクセスを獲得。
- ◆ アクセスデータ解析による顧客動向理解、検索エンジン最適化やメールマーケティングによる認知・興味喚起・理解促進を通じて、顧客ニーズの把握と当社事業への繋ぎこみを図るデジタルマーケティングを展開中。

■ Green & Circular トップページ



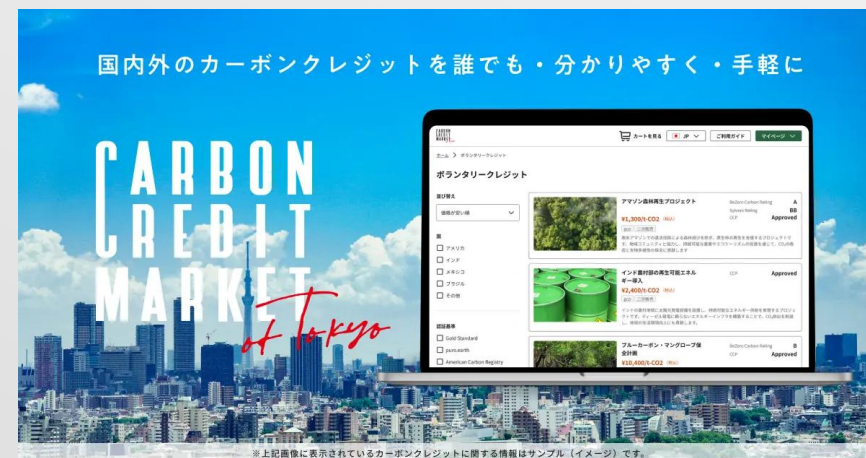
<https://www.mitsui.com/solution/>

■ Green & Circularで紹介する各種ソリューション



CO₂排出量の可視化・報告・削減

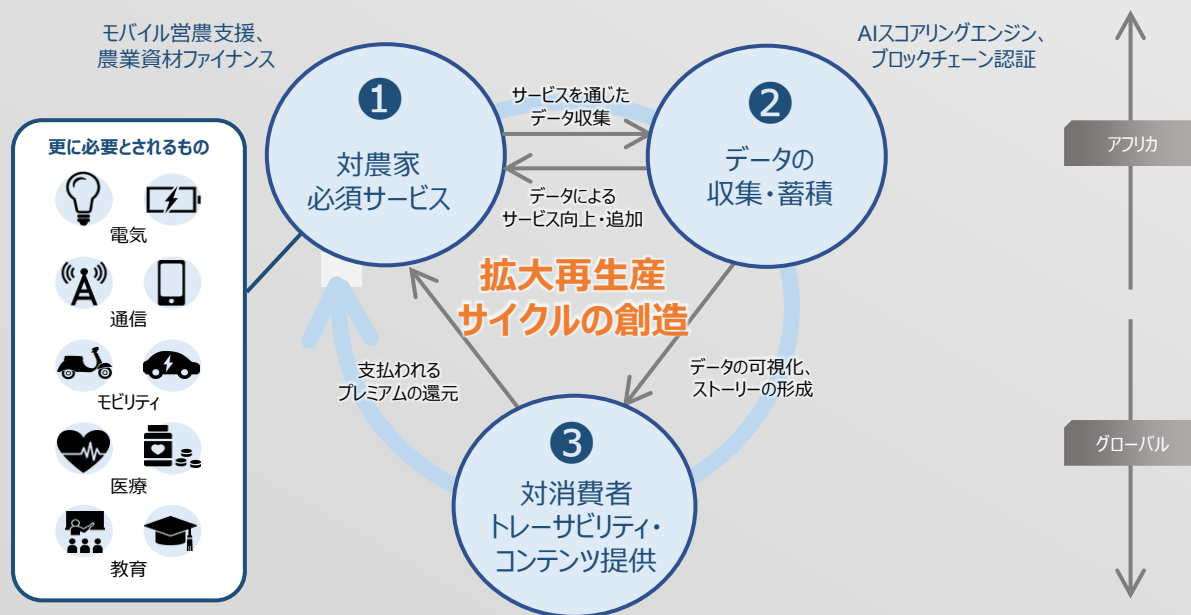
- ◆ クラウドサービスを通じて、**CO₂ 排出量の可視化**からエネルギー調達の最適化、CO₂ 排出量削減までを**トータルにサポート**するサービスプラットフォーム。
- ◆ 2022年7月にカーボンクレジットを購入可能なCarbon Offsetサイトをリリース。
- ◆ **東京都発、カーボンクレジットの供給者と企業等を繋ぐ「東京都カーボンクレジットマーケット」の開発を受託。2025年3月にオープン。**
- ◆ 2025年8月に**LCA Plus***を事業統合し、**e-dash CFP**をリリース。



脱炭素・エシカル関連[farmers 360° link[日]]

CO₂排出量の可視化・報告・削減

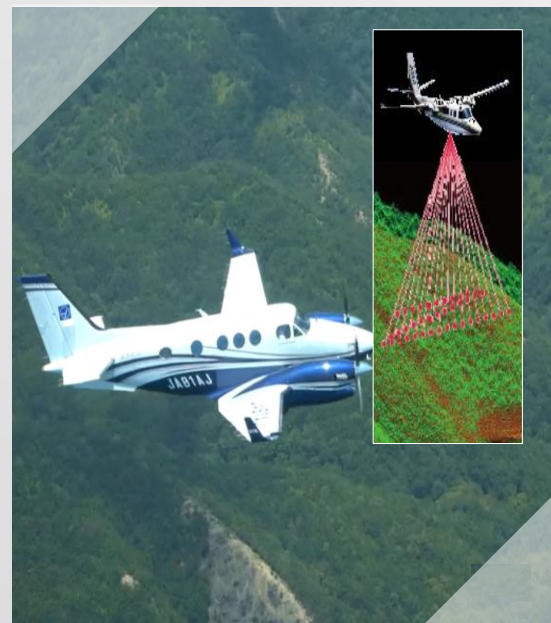
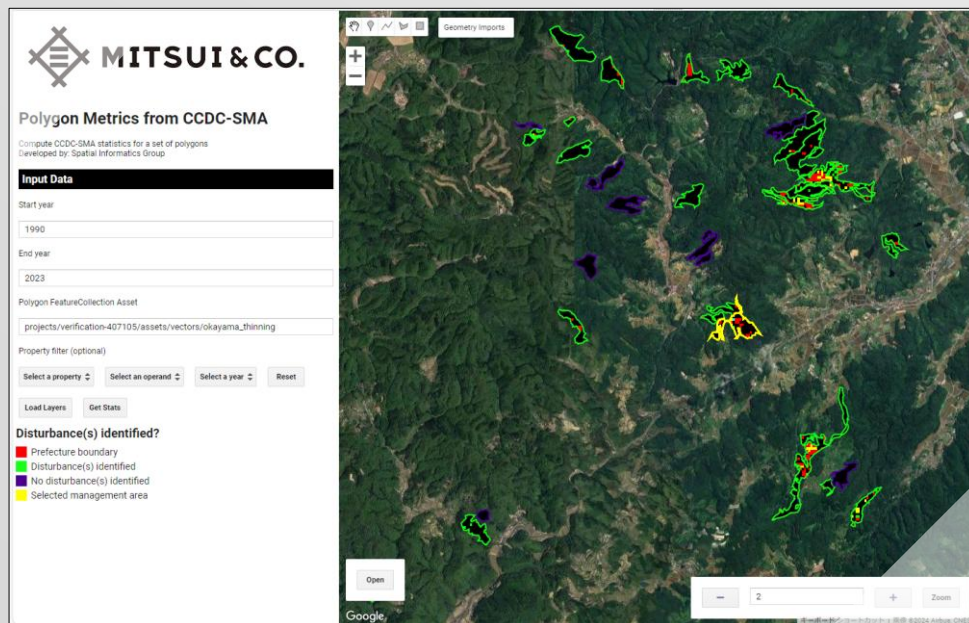
- ◆ 当社出資先である1967年に設立された世界的な農業サプライチェーン企業ETGとの協業。
- ◆ サプライチェーンの最上流から最下流迄を全てトレース、商品の環境・社会インパクトを可視化。
- ◆ 生産者と消費者を直接繋ぎFairな対価の分配と共同でのSDGsへの取組の実現を目指す。



脱炭素・エシカル関連^{["森林DX" [日]]}

森林J-クレジット創出（GHG削減への貢献）

- ◆ 全国の都道府県様に対し、航空測量データを用いたCO₂吸収量の可視化、大規模なクレジット創出・販売支援を展開。
- ◆ 衛星データとAIを用いた「森林巡視システム」を自社開発、特許取得済。



映像提供：アジア航測株式会社



ウェルネス系DX

クラウド×医療画像

- ◆ 2020年現在**国内クラウドPACS市場の約70%**を占める約1,100施設に導入。
- ◆ 管理する延べ患者数は38百万人、検査件数は**227百万検査**。
- ◆ 医療機関内に保存される患者の医療情報を、患者個人がスマホで閲覧・管理することのできるPHRサービス。
- ◆ AIによる診療現場支援を目的として、**医用画像診断支援AIプラットフォーム事業**。

主要事業

クラウドPACS

医療画像情報を安全・便利にクラウド
上で保管し多岐にわたる用途での利
用を可能にする

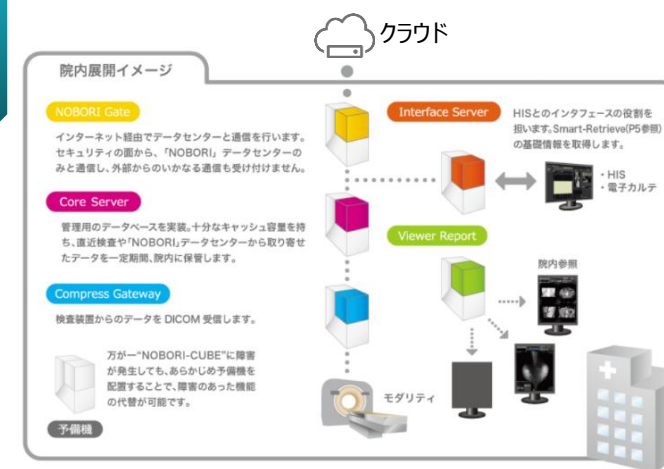
医療画像AI事業

医療の高度化に資する
画像診断支援AIの開発と
販売を支援

患者向けPHR事業

本人やご家族の医療情報を
患者がスマホで閲覧・管理する
サービスを展開

クラウド PACS概要

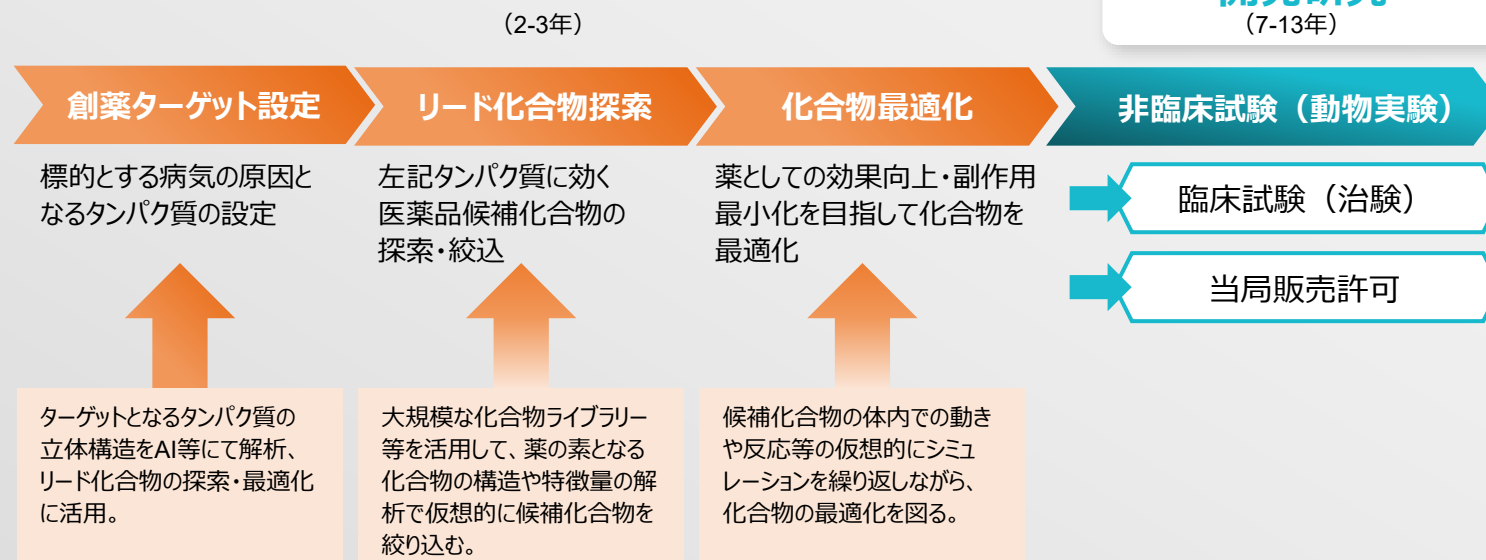


医療データ活用

- ◆ AIやシミュレーション等、**最新コンピューター技術**を活用して**創薬の基礎研究**を製薬会社向けに行う事業。
- ◆ コンピューター技術を創薬研究に全面的に駆使することで、**大幅な効率化と成功率の改善**に結び付ける。
- ◆ 約半世紀に亘りバイオインフォマティクス事業に取り組む三井情報とも連携し事業展開。
- ◆ 最新GPUスパコン及び先進創薬AIソリューションの利用環境の提供を通じ、**ヘルスケア業界におけるInnovation Hubを実現**するTokyo-1プロジェクトを運営。

正式名称 : 株式会社ゼウレカ (Xeureka)
設立年月日 : 2021年11月1日
出資構成 : 三井物産 100%

開発研究
(7-13年)



ゼウレカのターゲット領域

Dry※により成功率改善及び時間＝コスト削減への貢献を目指す

※Dry : AI等コンピューター技術活用による創薬（Wet : 研究所での実験による創薬）

Well-beingデジタルプラットフォーム

- ◆ 1946年創業。
- ◆ 出版や相談事業で培ったナレッジや専門ネットワークにデジタルの技術を掛け合わせた**複合的なWell-beingサービスで、健康経営、疾病予防の実現をサポート。**
- ◆ 健康保険組合加入者・企業従業員の皆様や、保険や電力など各種サービスなどの加入者に向けて**科学的根拠に基づく医療・健康情報、医療専門職によるパーソナルコーチング**（特定保健指導など）などを提供。
- ◆ 「みんなの家庭の医学」アプリを提供。

■ みんなの家庭の医学



<https://service.kateinoigaku.jp/>

ウェルネス関連[THINKIE[米]]

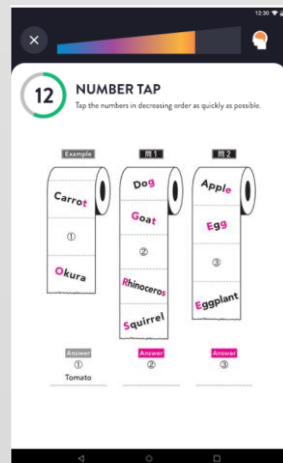
Well-beingデジタルプラットフォーム

- ◆ 脳血流デバイスおよび脳トレアプリを活用した高齢者向け認知機能トレーニングサービス。2023年より米国の高齢者施設にて導入予定。
- ◆ 脳トレアプリ利用時の脳の活動量を計測・アプリ上に可視化することで、利用者のやる気を引き出し、トレーニング継続を促す。

脳血流測定器
※1



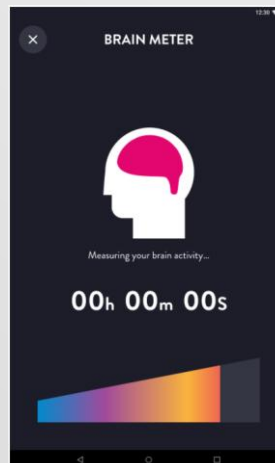
脳トレゲーム



成果と脳活動ノルマ



脳血流量計



脳年齢計測



利用イメージ



※1：近赤外光を額から前頭葉に向けて照射し反射度合いから血流量を計測
※2：東北大学発のスタートアップ。当社は2022年1月に投資参画。

アプリ開発

- ◆ 2015年7月に「海と人、水と人との、新しい「つながり」をうみだす水族館」というコンセプトでオープン。運営会社は八景島と、当社筆頭株主である仙台うみの杜水族館開発。年間パスポート来場者数の増加施策としてアプリをリリース。
- ◆ チェックイン機能や歩数計機能を提供。チェックインを複数回・目標の歩数に達成すると、特別画像等提供中。
- ◆ アプリから取得出来るデータを分析し、各種施策実施に向け利用。

★ ★ 仙台うみの杜水族館 ★ ★
公式アプリが誕生しました！



消費者起点系DX

データドリブン商品開発

- ◆ **データを活用した**自社商品開発、販売・運営事業。
- ◆ 既存メーカーの**データドリブン**な商品開発、DX推進支援。
- ◆ 自社ブランド運営で培ったマーケティング知見×当社バリューチェーンを最大限活用することで大手メーカーのブランド開発を支援。

アイデア探索/ コンセプト立案



- インサイト分析
- 初期コンセプトの立案

モノづくり



- 素材探索/レシピ開発
- OEM探索/マネジメント

ブランド開発



- ブランド開発
- 包材選定

EC展開/ データ分析



- ECサイト構築
- データ分析基盤

流通拡販

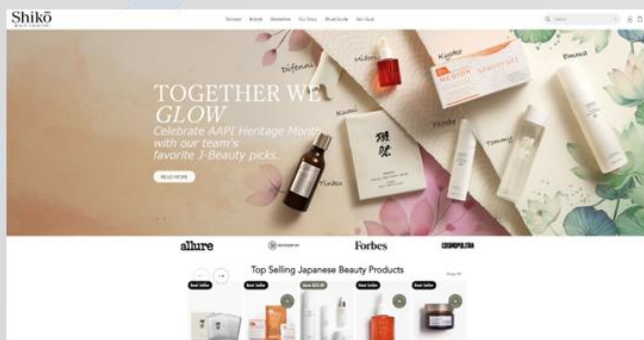


- 小売展開網
- 小売データ分析

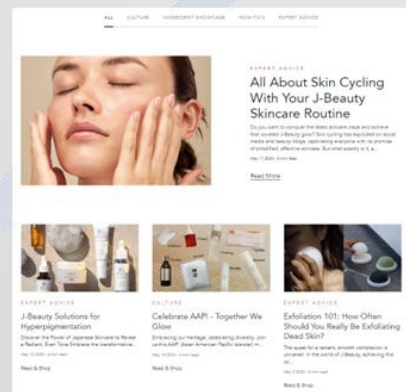
D2C型商品開発

- ◆ Shiko Beauty Inc. (米国三井物産100%子会社)
- ◆ 2021年、同社のeコマースプラットフォーム (<https://shikobeautey.com/>) を立ち上げ、日系ブランドのスキンケア等のコスメティックス関連商品を消費者に直接販売。
- ◆ デジタルマーケティング機能に磨きをかけ、ターゲット顧客にリーチし商品購入してもらうまでの一連の施策のPDCAサイクルの確立と加速に注力。
- ◆ また蓄積された販売データ、消費者Insight及びShiko関連のネットワークを基に、ブランドとの新商品共同開発なども推進中。

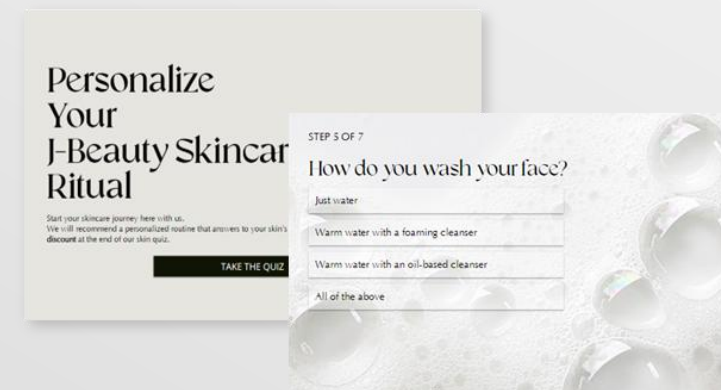
■ Home Page



■ Blog Page



■ Skin Quiz



ダイナミックプライシング

- ◆ **ビッグデータとAIを活用**、需要予測を基に**価格を自動調整**、売上向上。
- ◆ 18年6月設立（ぴあ、エイベックス、NECが株主参画）。
- ◆ スポーツ、コンサート、テーマパーク、ホテル、EC、小売りなど
AIアルゴリズムによるダイナミックプライシングおよびレベニューマネジメントサービスを様々なビジネスに展開。

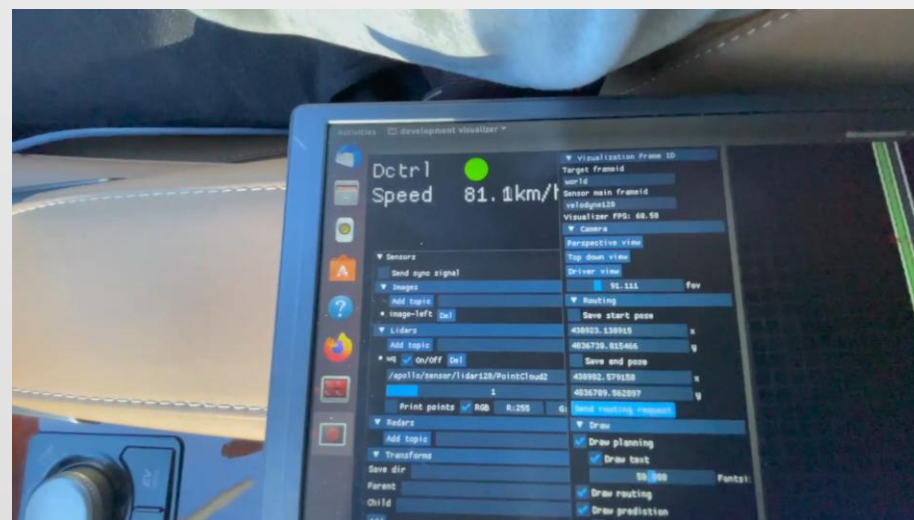


Jリーグ、プロ野球、Bリーグなどの
エンターテインメントを皮切りに、
様々なビジネスへ展開

金融・ロジスティクス系DX

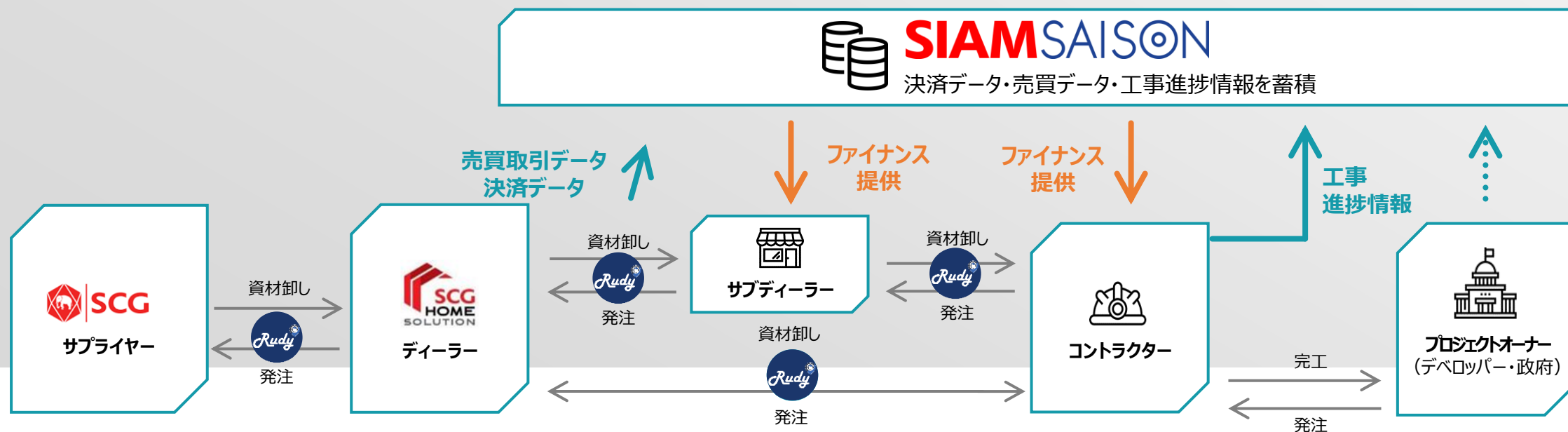
Truck as a Service

- ◆ 目的：レベル4自動運転トラックによる幹線輸送サービスの提供
 - ✓ レベル4自動運転トラック技術を開発、公道実証実験を推進中。
 - ✓ 並行して幹線輸送サービスの事業性を検証中。
 - ✓ 戦略的DX支援制度活用により、新技術開発、事業開拓を加速
- ◆ これまでの取り組み：
 - ✓ Phase1：2020/7~2021/4 自動運転車両開発(乗用車)、マーケット調査、関連事業検討
 - ✓ Phase2：2021/6~ 自動運転車両開発(トラック)と安全走行体制の検討
 - ✓ 2022年8月：事業会社「T2」設立。同11月より公道実験を開始。2024年5月より、新東名高速道路にて自動運転レベル2の公道実証実験を開始。(駿河湾沼津SA - 浜松SA間)
 - ✓ 2023年6月~2024年2月：シリーズAとして60.7億円を資金調達。



データファイナンス事業

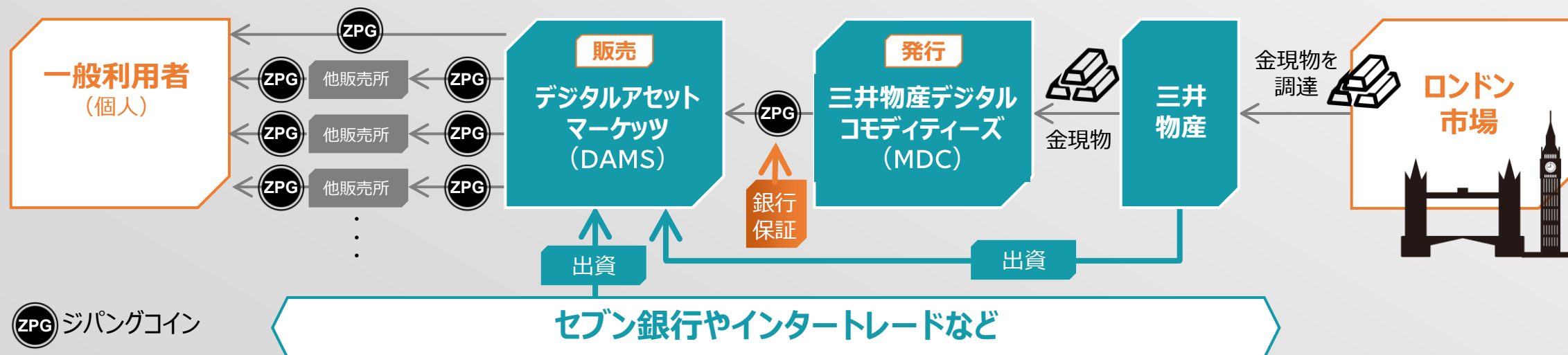
- ◆ タイ建築資材物流のDX案件。タイ建築資材業界でシェア6割を誇るSiam Cement Group（SCG）とのJVであり、SCGの場を活用した取組。
- ◆ SCG及び販売店の保有するデータに基づき、ディーラーとコントラクター/サブディーラー間の取引に、与信・ファイナンスを提供するデータファイナンス事業。
- ◆ SCG子会社の受発注プラットフォームRudyが取引をデジタル化。Rudy経由で各種データを入手・貸出受付。



仮想通貨

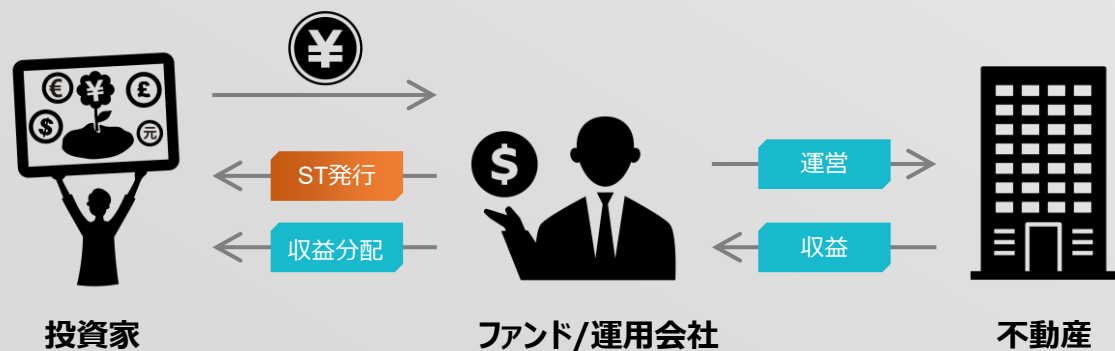
- ◆金を裏付け資産とする仮想通貨「Zipangcoin（ZPG）」を、三井物産デジタルコモディティーズが発行し、暗号交換所（デジタルアセットマーケット）に上場。
- ◆ブロックチェーンによる小口化と低コスト化を実現。
- ◆管理者を置くプライベート型ブロックチェーンをベースに、安全な取引を実現。

ジパングコインの発行のしくみ



STO : Security Token Offering

- ◆ **ブロックチェーン**を含む総合的なデジタル技術を持つLayerXと共同で三井物産デジタルアセットマネジメントを設立。
- ◆ システムの安定性・情報の安全性をブロックチェーン技術で担保し、信頼性の高い投資プラットフォームを構築。
- ◆ ブロックチェーン技術を用いて**デジタル有価証券を発行**し、既存の金融商品取引規制の枠内で資金調達、**国内外の不動産/インフラファンドの運用**を行う



Shopify物流

- ◆ 中小企業を主としたEC事業者が発送手続きをShopifyプラットフォームとシームレスに簡単に行え、配送会社の定価運賃よりも安く配送が行えるサービス。配送数量が少なく配送会社と個別に運賃交渉ができないEC事業者の代わりに、当社が大手配送会社に対し一括契約を行うことで、EC事業者に配送会社の定価よりも安い価格で配送料を提供。
- ◆ Shopifyプラットフォームでは物流機能が不足しており、送り状の発行業務については手書きや他アプリにCSV連携等、EC事業者に作業負担発生。Plus shippingではShopify注文情報を自動連携、送り状印刷まで実現し配送業務のスマート化実現。

わずらわしい支払いの手間いらず!

アプリ内で 事前決済

配送伝票作成と同時に、
クレジット決済まで一気に完了。

スマートな配送料決済ができ、
請求書のやりとりとも無縁に。

ご利用のクレジットカード登録も、
一度で完結。



手入力・手作業での伝票作成はもう不要!

注文から 伝票作成までを 一元管理

シンプル操作で配送伝票を作成でき、
時間を大幅に短縮。

面倒な情報の移し替えがなく、
注文情報と自動で連携し配送まで管理可能に。

配送時の荷物のサイズを選択するだけで、
適正な伝票を作成。



全国一律、配送料
最大 **51% OFF**
荷物の個数が少なくてもOK

全国一律の料金で配送することが可能です。

配送料も一般的な料金と比べ、
最大で51%OFFに。

荷物の個数制限がなく、
1個からでも利用できます。



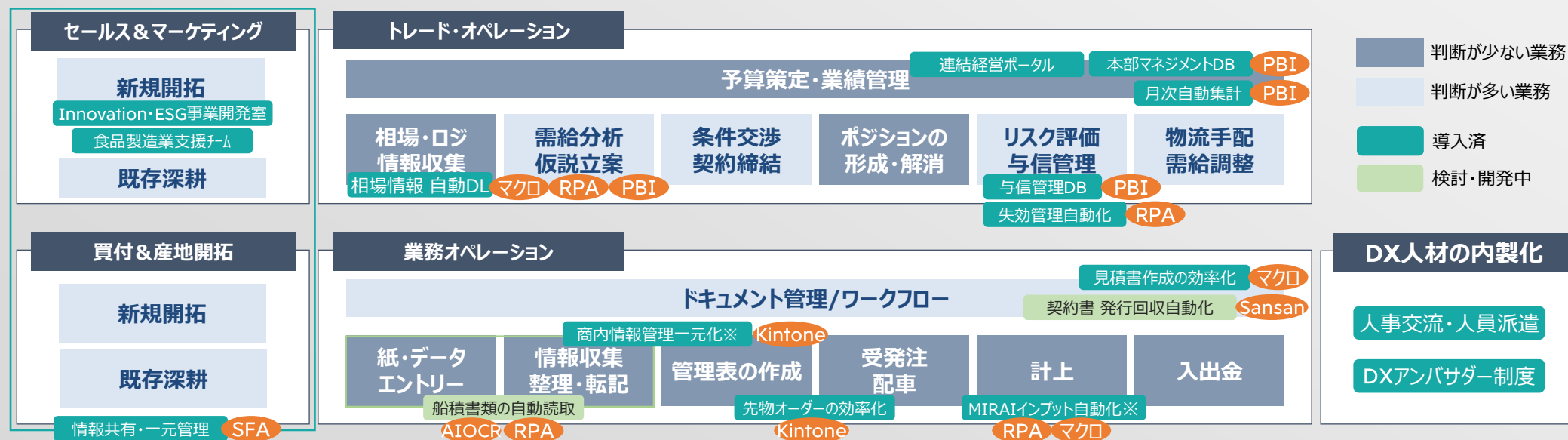
COE

業務効率化関連

自動化・可視化・クラウド化

物流Execution業務改革

- ◆ 食料本部の物流業務における事務処理・単純作業を徹底的に効率化し、**既存の人員規模でも取引の拡大に対応できるシステム環境を実現**する。



具体例.

- ・商内情報管理一元化：輸出入業務において、Kintone活用により、散在するExcel管理表を集約・SIMOを実現。社内外の関係者とリアルタイムで情報共有が可能に。
- ・MIRAIインプット自動化：国内物流業務において、RPAを活用し、月間600件以上の基幹システムでの出庫計上作業を半自動化。

業務効率化関連

輸入貿易業務の自動化・省力化

◆ システム概要

- ・輸入貿易業務における、船積書類のチェック及びMIRAI等への船積計上・荷捌依頼と書類格納に関連する単純作業を自動化し、取引拡大に伴うBI・派遣職のコストを抑制して収益拡大に貢献。
- ・SeaDashの導入により、船積書類のチェックからMIRAI計上までの業務時間が約3割削減される見通し。

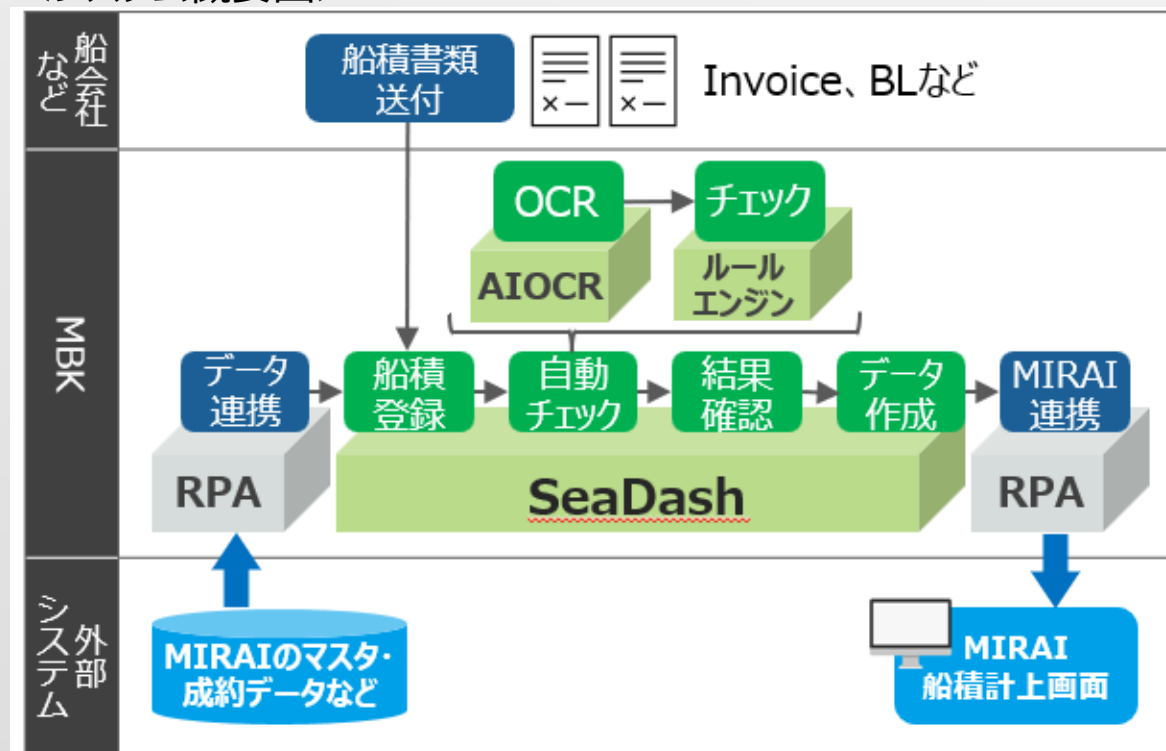
◆ 取組みの流れ

- Phase1(22年10月~25年12月): システム開発・トライアル・検証
Phase2(26年~): 食料本部での導入準備
Phase3(26年~): 他本部でのSeaDash導入可否の調査・検討

◆ 技術

- ・プラットフォーム: xStraBPM 
- ・船積書類の読取(AIOCR): Flexicapture 
- ・データのチェック・照合: NaU 
- ・MIRAI転記: BluePrism 

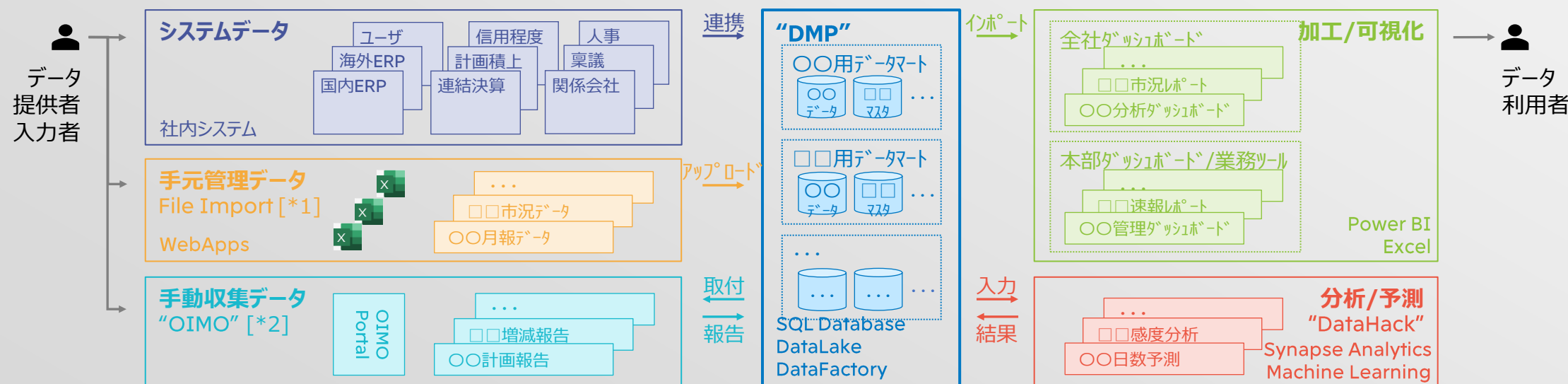
<システム概要図>



DD経営戦略関連

DMP (Data Management Platform)

- ◆ 社内に散在するデータを集約し一元的に提供する単一のデータベース (“DMP”) を、全社プラットフォームとして運用
- ◆ 複数の社内システムに散在するデータの集約・提供、及び各本部/コーポが手元管理/手動収集しているデータの収集・可視化を推進
- ◆ データ収集/加工/提供に必要なシステム機能を共通基盤として整備、必要に応じ機能拡張 (ex. 入力フォーム, データ分析)



*1: File Import | 各部署がExcel/SharePoint等で更新/保管しているデータを、Excel形式でDMPへアップロード/蓄積できる仕組み

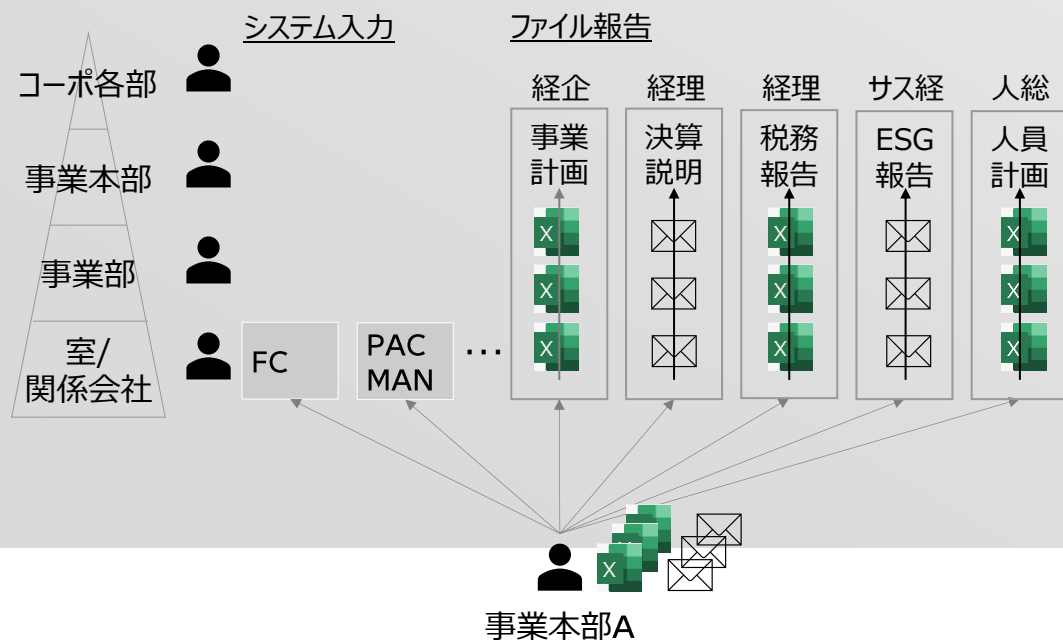
*2: OIMO | 主にコーポレート各部署が各事業本部からExcel/Word/メール等で収集している報告書のポータル化/データ化を推進する取り組み

DD経営戦略関連

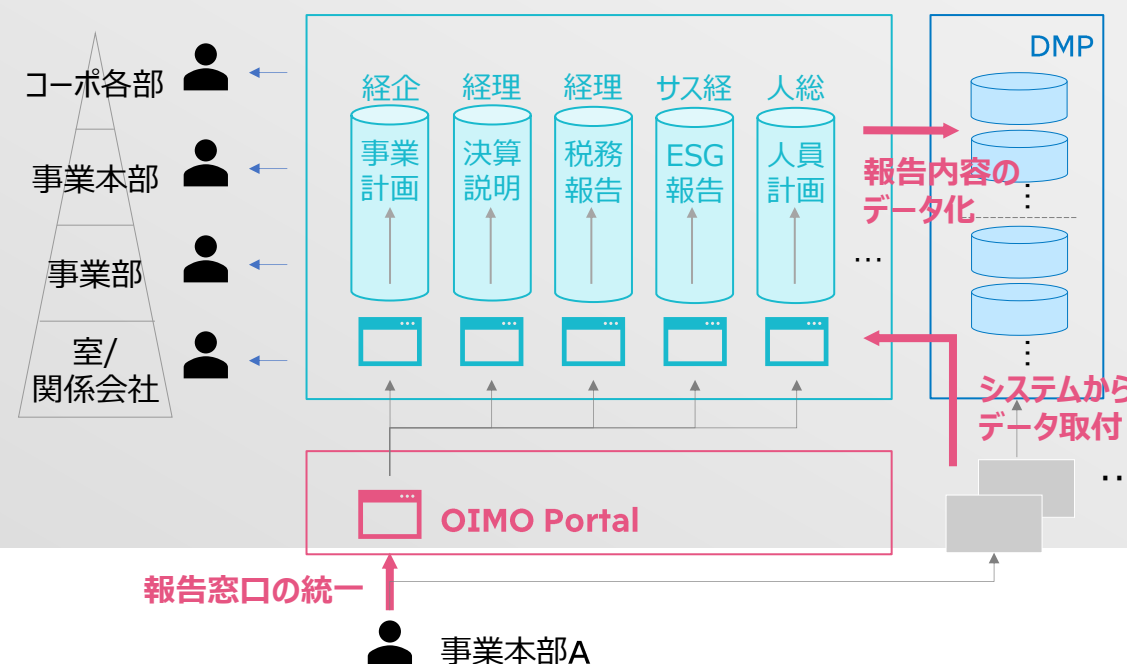
OIMO (One Input Multiple Output)

- ◆ **コーポレート各部宛て報告業務のポータル化・Webフォーム化**により、社内報告効率化とデータ利活用促進を実現する取り組み
- ◆ **報告窓口をOIMO Portalへ単一化**し、要領や期限等の関連情報も一元化することで、ユーザーの探す/調べる負荷を軽減
- ◆ **Webフォーム化・業務システムとのデータ連携**により、入力項目最少化と入力内容データ化、対象業務外でのデータ利活用を促進

社内報告業務のAs Is



社内報告業務のTo Be

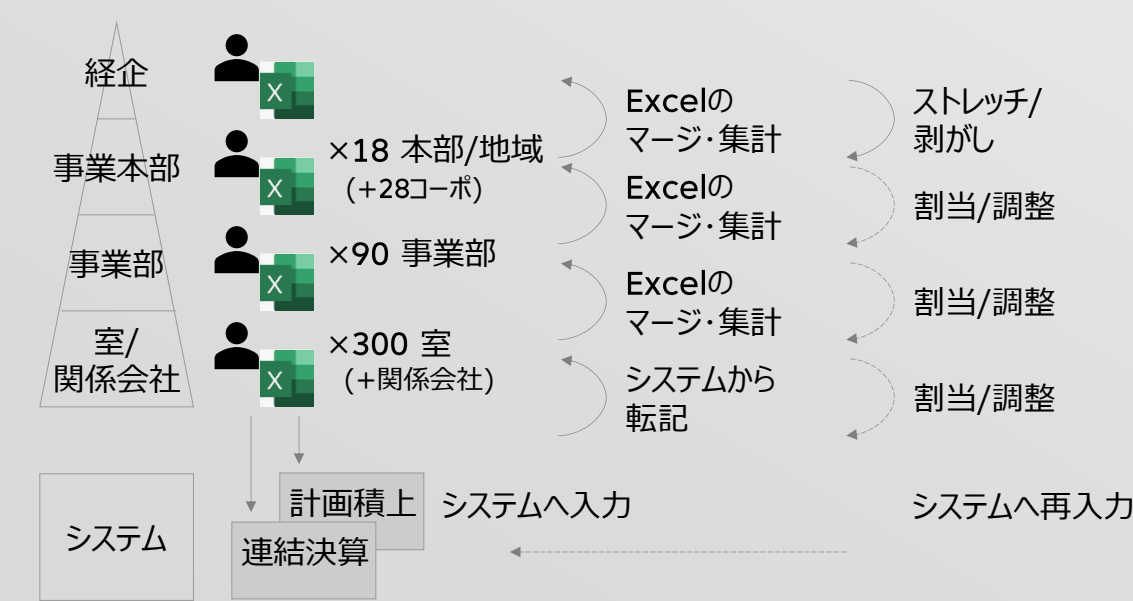


DD経営戦略関連

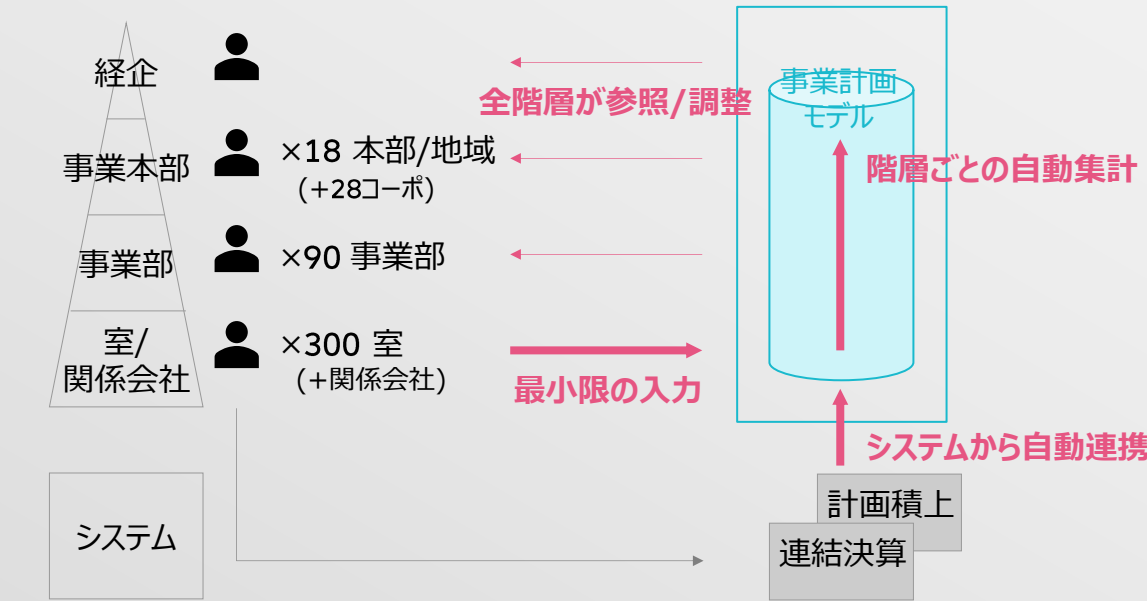
事業計画DX

◆ 事業計画に代表される、多くの部門/社員が関係し、**階層間でのデータ収集/集計作業**に負荷がかかる報告業務に関しては、**システムからの転記やExcelのバケツリレーを排除**し、最小限の入力と階層間の自動集計、単一データベース上での調整作業の実現を目指す

事業計画策定のAs Is



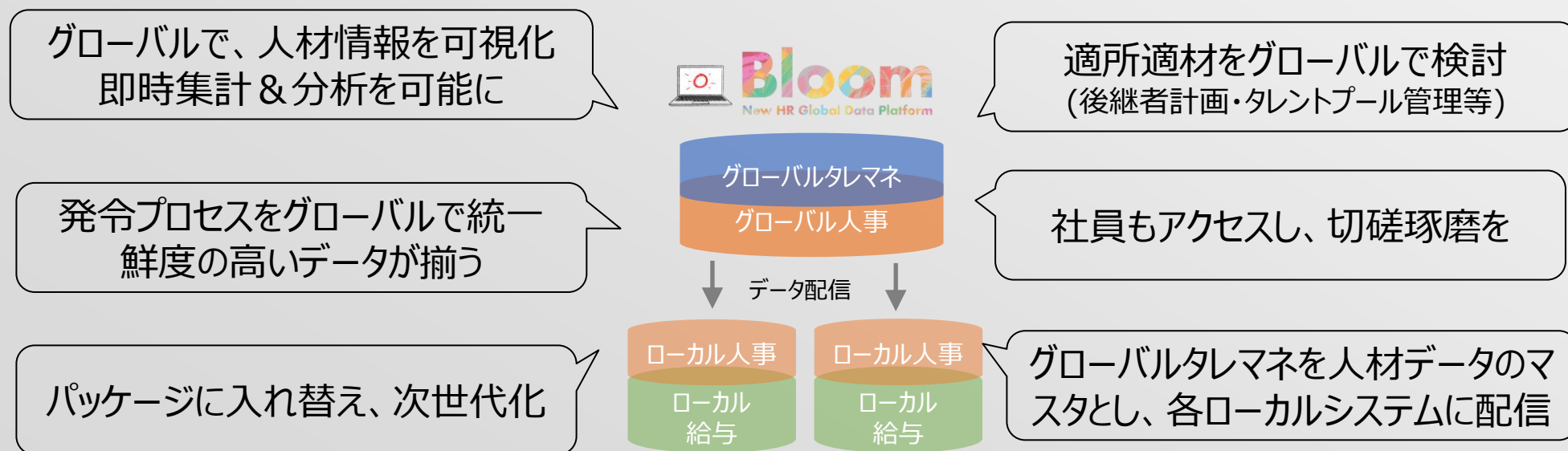
事業計画策定のTo Be



グローバル人材戦略関連

グローバルタレントマネジメントシステム

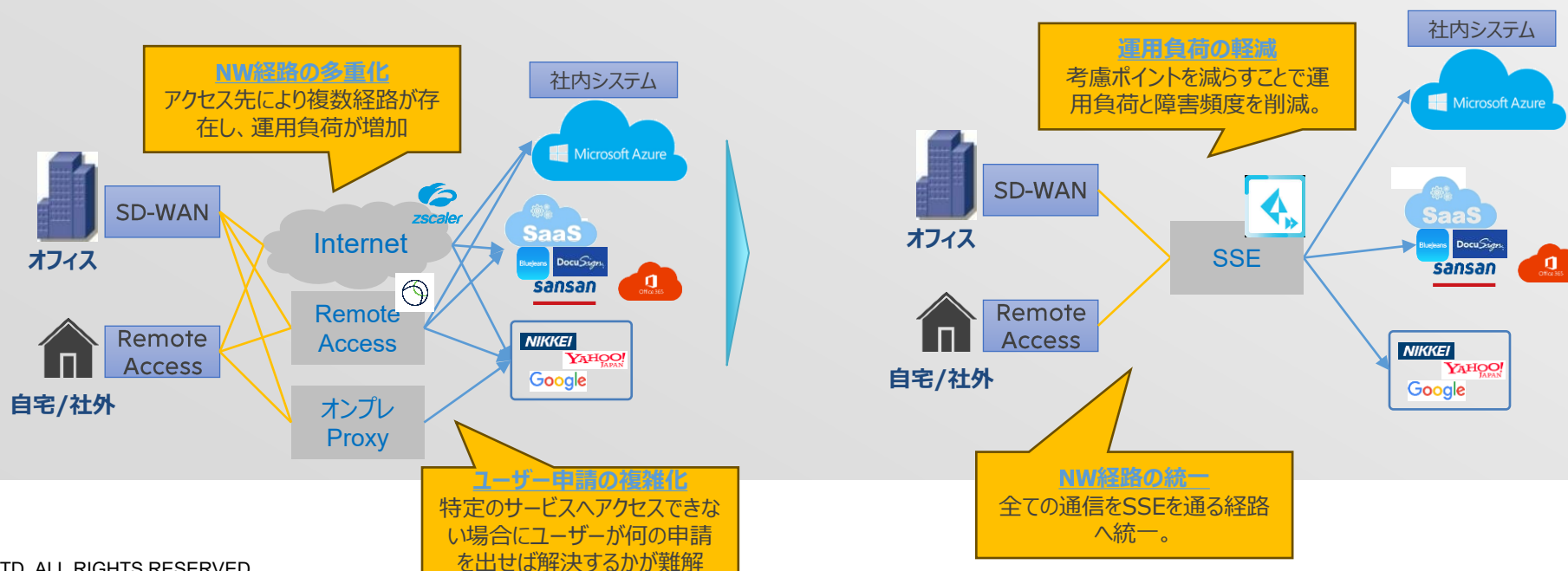
- ◆ 三井物産グローバルでのタレントマネジメントシステム(Bloom)として、2024年12月よりグローバル稼働開始
- ◆ グローバルでの適所適材・社員のキャリア支援を推進するため、各国での個別管理からグローバルで統一・統合された人事データを活用
- ◆ グローバルタレマネ上のデータをマスタとした配信方式を採用、各ローカル人事システムはグローバルで統一されたデータを利用



ネットワーク関連

WANサービス

- ◆ 世界各地にある拠点を安定かつ高速なネットワークで接続
- ◆ 従来SD-WANとクラウドプロキシであるZscaler、リモートアクセス用のAnyConnect、データセンタ設置のオンプレプロキシサーバを併用して利用していたが、アクセス先によって経路が複雑化してしまい、運用負荷が上がり障害也多発
- ◆ 対応として、全ての経路を一本化すべくSSE機能を導入。各アクセス先へは全てSSEを経由することとし、セキュリティを確保しつつNW構成の簡素化を実現



クラウド関連

クラウドサービス

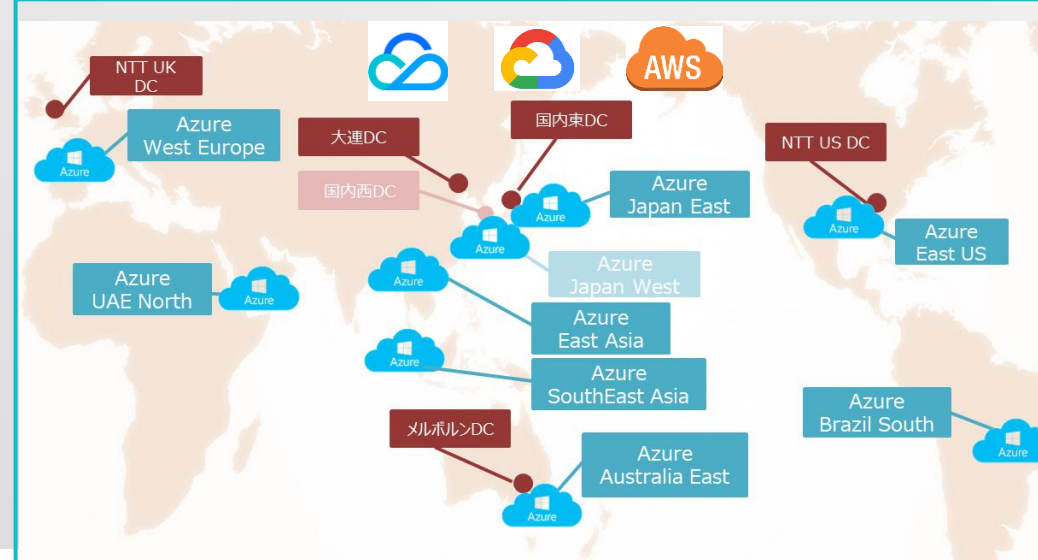
- ◆ 三井物産のグローバルに展開された拠点が快適にクラウドサービスを利用できるようにMicrosoft Azure環境を整備。
- ◆ グローバル向けに基盤運用やセキュリティ対策を三井物産本店で一元的・集中的に実施。利用者の運用効率化に寄与。
- ◆ 用途に応じて選択できるようAWSやGCP、Tencent Cloudもサービス提供中

メインクラウド基盤として運用・機能を提供

Azure IaaS



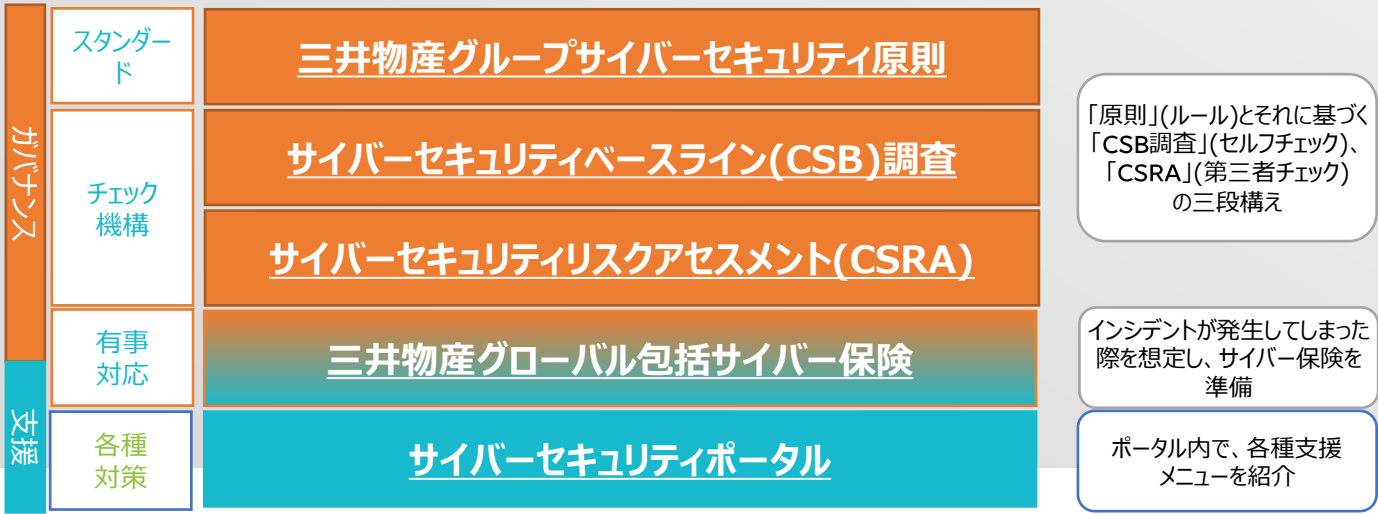
用途に応じサービスを選定できるようマルチクラウド化



セキュリティ関連

関係会社向けサイバーセキュリティガバナンス・支援

- ◆ 三井物産単独ではなく、関係企業も含むグループ全体にガバナンスを効かせ、サイバーセキュリティを向上させるための取組
- ◆ グループ企業が準拠すべき「三井物産グループサイバーセキュリティ原則」を制定。
- ◆ 原則に準拠した取り組みができているか、「サイバーセキュリティベースライン（CSB）調査」によるセルフチェックを各社に依頼。
- ◆ その上で、第三者による「サイバーセキュリティリスクアセスメント（CSRA）」を実施。
- ◆ グループ全体のサイバーセキュリティポータルで情報を共有。グループ向けのサイバーセキュリティサービスなども紹介。



ワークスタイル関連

リモートワークへの対応

- ◆ 各種インフラ・アプリ施策により柔軟な働き方を実現
- ◆ 在宅勤務でも生産性を落とさない、安心・安全な環境を構築
- ◆ ペーパーレス化も進捗

インフラ

リモートアクセス

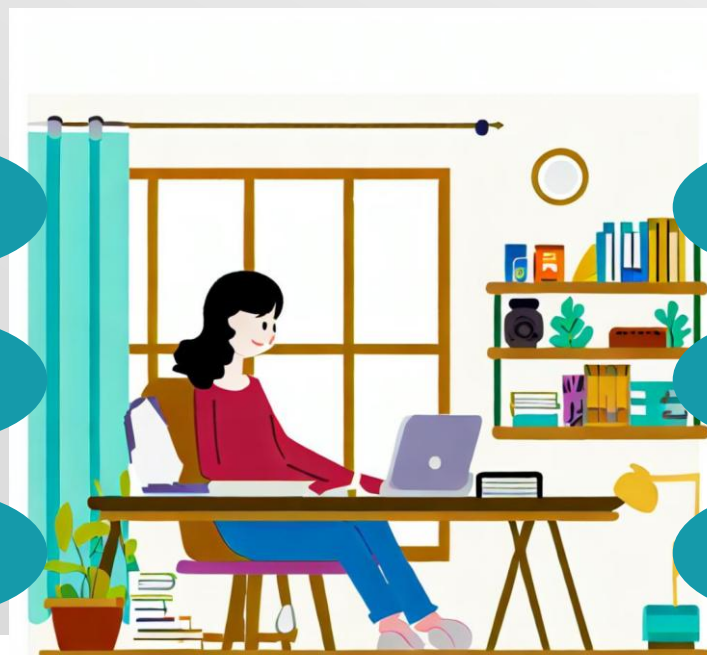
セキュリティ

モバイル

アクセシビリティ

安全

モビリティ



承認

会議

連携共有

アプリケーション

電子署名

オンライン会議
オンライン名刺

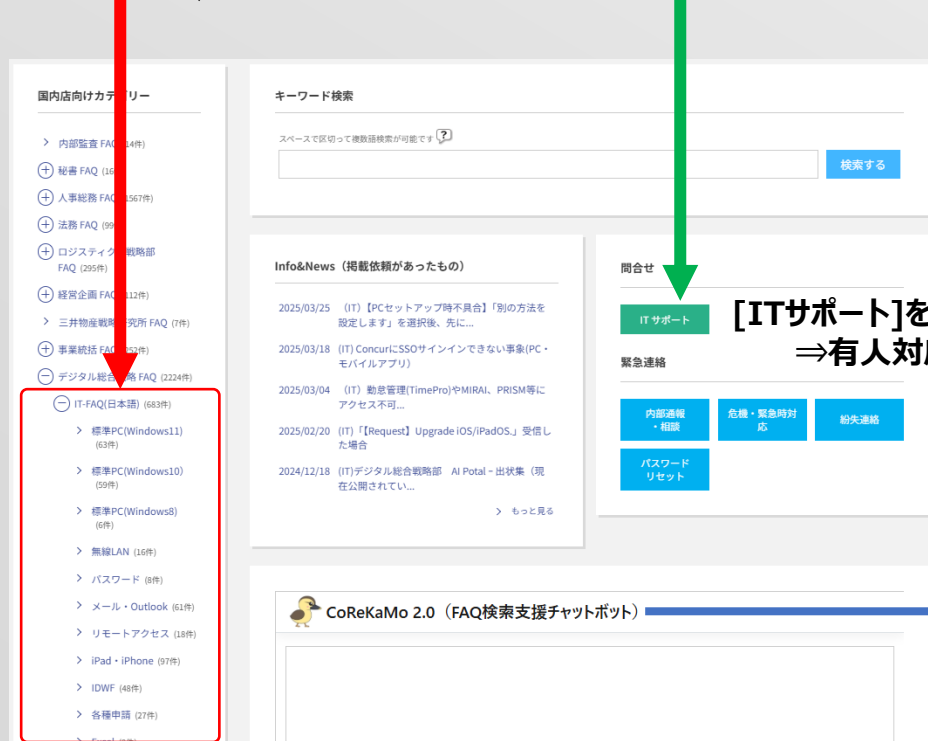
チャット
クラウドストレージ

従業員サポート関連

従業員のIT関連の「迅速なお困りごと解決」に向けた取り組み

お問合せ関連を纏めたUI

◆IT-FAQ（自己解決） ◆ITサポート（有人対応）



国内店向けカテゴリー

- > 内部監査 FAQ (4件)
- ⊕ 秘書 FAQ (16件)
- ⊕ 人事総務 FAQ (567件)
- ⊕ 法務 FAQ (99件)
- ⊕ ロジスティクス戦略部 FAQ (295件)
- ⊕ 経営企画 FAQ (12件)
- > 三井物産戦略研究所 FAQ (7件)
- ⊕ 事業統括 FAQ (52件)
- ⊖ デジタル総合戦略 FAQ (2224件)
- ⊖ IT-FAQ(日本語) (683件)
 - > 標準PC(Windows11) (63件)
 - > 標準PC(Windows10) (59件)
 - > 標準PC(Windows8) (6件)
 - > 無線LAN (16件)
 - > パスワード (8件)
 - > メール・Outlook (61件)
 - > リモートアクセス (18件)
 - > iPad・iPhone (97件)
 - > IDWF (48件)
 - > 各種申請 (27件)

キーワード検索

スペースで区切って複数語検索が可能です (?)

検索する

Info&News (掲載依頼があったもの)

2025/03/25 (IT) 【PCセットアップ時不具合】「別の方法を設定します」を選択後、先に...

2025/03/18 (IT) ConcurにSSOサインインできない事象(PC・モバイルアプリ)

2025/03/04 (IT) 勤怠管理(TimePro)やMIRAI、PRISM等にアクセス不可...

2025/02/20 (IT) 「Request」Upgrade iOS/iPadOS.」受信した場合

2024/12/18 (IT) デジタル総合戦略部 AI Portal - 出状集 (現在公開されています...)

もっと見る

問合せ

ITサポート

緊急連絡

内部通報・相談 危機・緊急時対応 紛失連絡

パスワードリセット

[ITサポート]をクリック
⇒有人対応の問合せ画面に遷移します

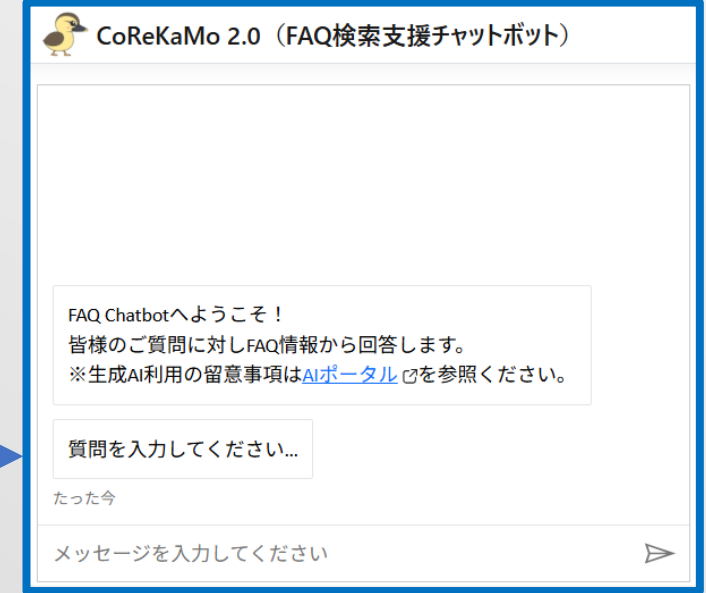
ITサポート：お問合せ画面

ホーム > 問合せをする

問合せをする

問合せの内容を記入してください。

- ◆「[CoReKaMo2.0](#)」社内FAQ検索支援チャットボット
 - ・初代（1.0）から検索精度が向上
 - ・自然文で質問、聞き直しで絞り込み可能
 - ・Teamsからの利用も可能（[こちら](#)からインストール）



CoReKaMo 2.0 (FAQ検索支援チャットボット)

FAQ Chatbotへようこそ！
皆様のご質問に対しFAQ情報から回答します。
※生成AI利用の留意事項は[AIポータル](#)を参照ください。

質問を入力してください...

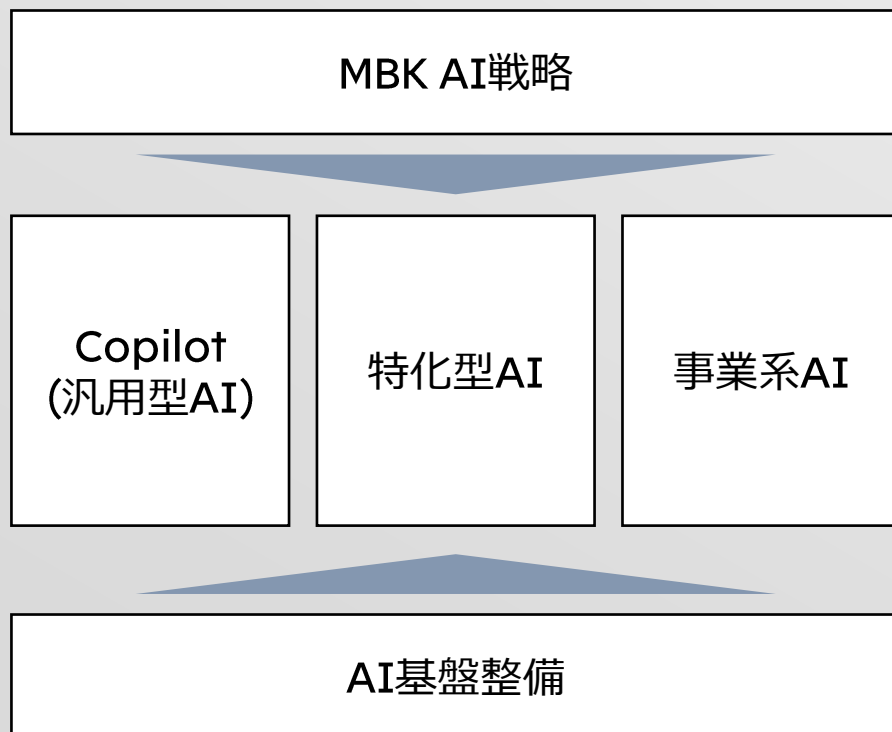
たった今

メッセージを入力してください

AIに関する当社取り組み領域

AIの利活用に必要な取り組むべき領域として、以下の5つに分類。

領域別構成図



領域/概要

MBK AI戦略	AI利活用のあり姿の策定
Copilot (汎用型AI)	Copilotを中心とするツールの利活用に関し て、ユースケースやユーザー展開の方針・ Action Planを策定・推進
特化型AI	社内の個別業務領域における特化型AIの 構築
事業系AI	事業におけるAIの利活用促進
AI基盤整備	AI利活用にあたって必要となるガバナンス・セ キュリティ・データ・基盤の整備

Copilotの全社展開

2024年12月10日からMicrosoft 365 Copilotの全社(当社単体)利用を開始。
社員一人一人が自分事として取り組めるよう、社長メッセージ動画、学習教材や全社イベント等、
様々な角度から社内で情報発信。



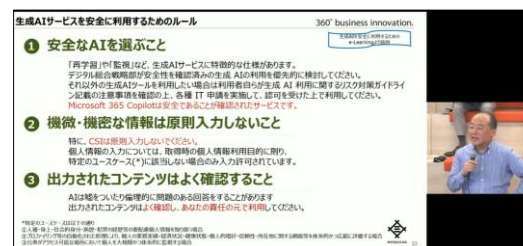
生成AI活用の社長メッセージ

生成AI・Copilotの全社展開
に際し、活用に伴う全社的な期
待や活用に伴う注意喚起を社
長自ら発信。



AIポータルによる情報発信

AIポータルにて説明会動画、
学習用コンテンツ、プロンプトの
ベストプラクティス等を公開する
ことで生成AI活用を促進。

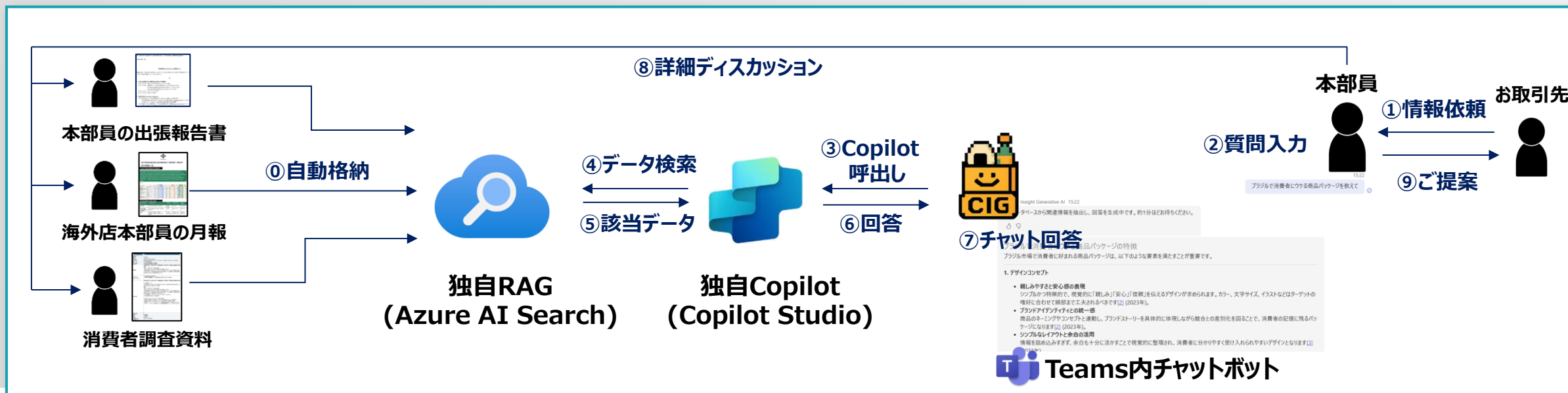


生成AI全社オンラインイベント

生成AI・Copilotの全社展開
を一人一人自分事として捉えて
もらえるようトライアルユーザとの
パネルディスカッション、社内事
例などを全社イベントで共有。

流通事業本部特化型AI

- ◆ 流通事業本部に特化した生成AIシステムを構築。
- ◆ 独自のRAGシステムと独自のCopilotをAzure環境内で構築。
- ◆ 本部内の報告書や調査資料等が自動で独自RAGへ格納され、本部員が独自Copilotを活用することで、**本部の総合力を活かした営業/投資/マーケティング業務が可能に。**



生成AIの事業への活用例



マーケティング領域での生成AI活用

グループ内のマーケティング領域の活用に向け
ライフスタイルメディアサービスの取組での各種検証実施

顧客理解AI（ペルソナAI）

フォロワーの疑似人格AIによる、商品企画等の壁打ち相手としての実用性・差別可能性検証中



記事生成AI

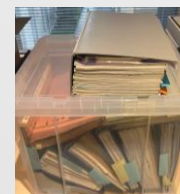
OWNドメディア(Web)の掲載
記事作成における生成AIの
実用性・業務効率インパクト・
商品価値向上の検証



不動産領域での生成AI活用

不動産業界の紙書類を含む情報のデジタル化&活用
を推進すべく、生成AIを活用したソリューション検討中

①建物関連書類



②AI-OCRで読取



③生成AIで構造化



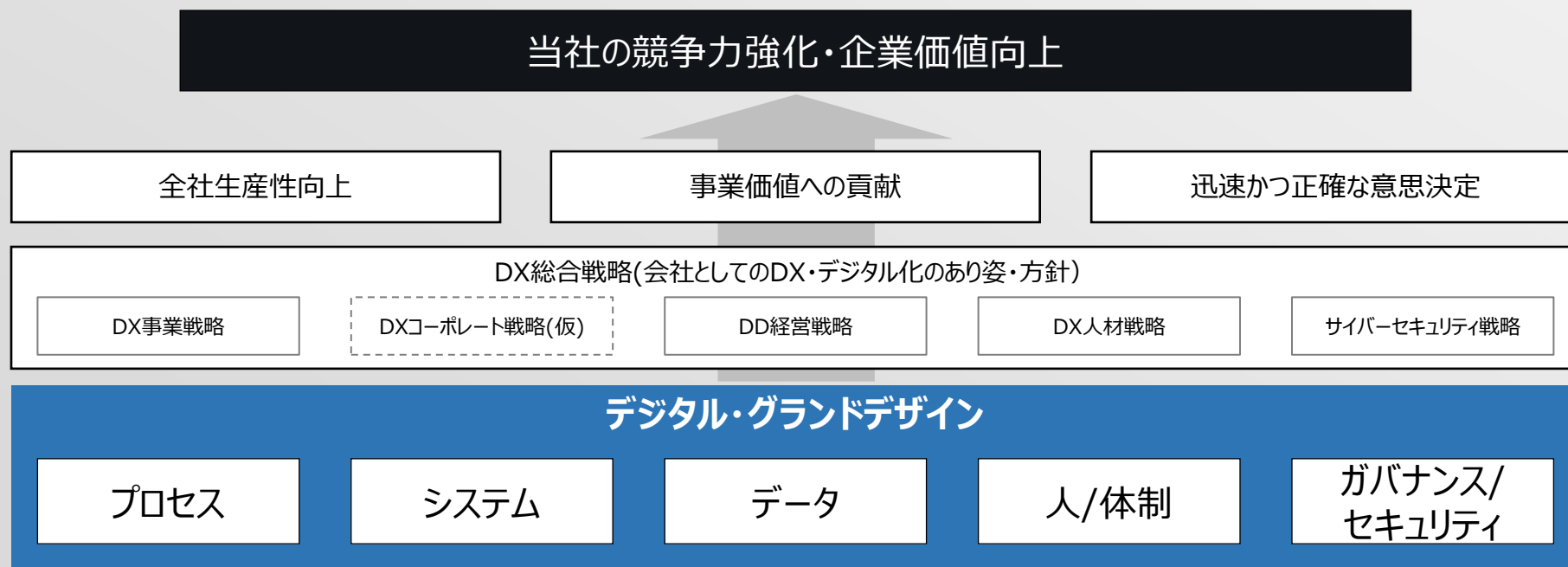
④各種調査活用等



デジタル・グランドデザイン

基本コンセプト

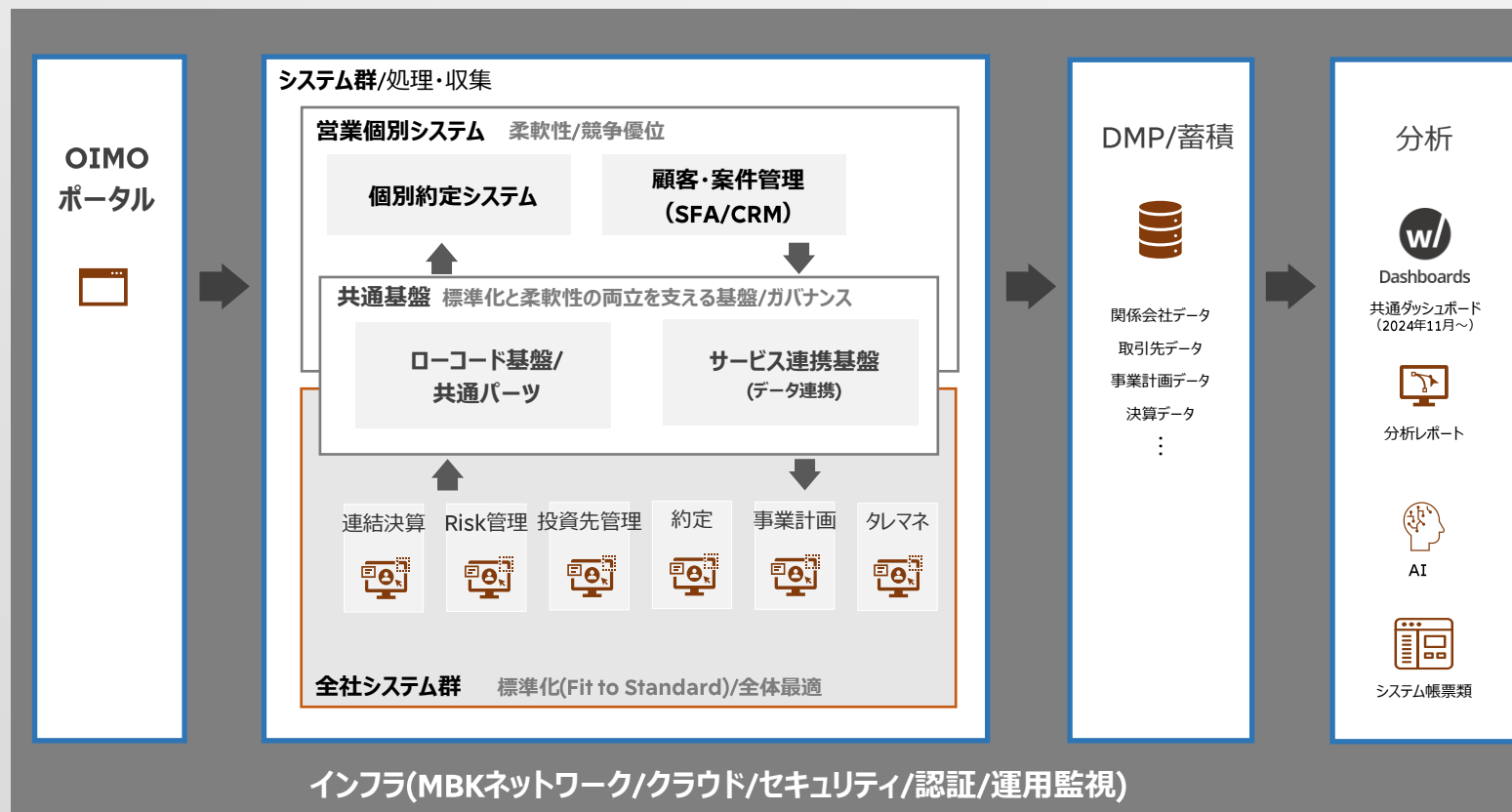
デジタル・グランドデザインとは、当社の競争力強化・企業価値向上に資する当社システムの基本思想とあるべき姿。「プロセス」・「システム」・「データ」・「人/体制」・「ガバナンス/セキュリティ」の5つの観点から、全体最適に基づくデジタルガバナンスと標準化のルールを定め、“全社生産性向上”、“事業価値への貢献”、並びに“迅速かつ正確な意思決定”の実現に向けた仕組みを構築する。



デジタル・グランドデザイン

Enterprise Architecture

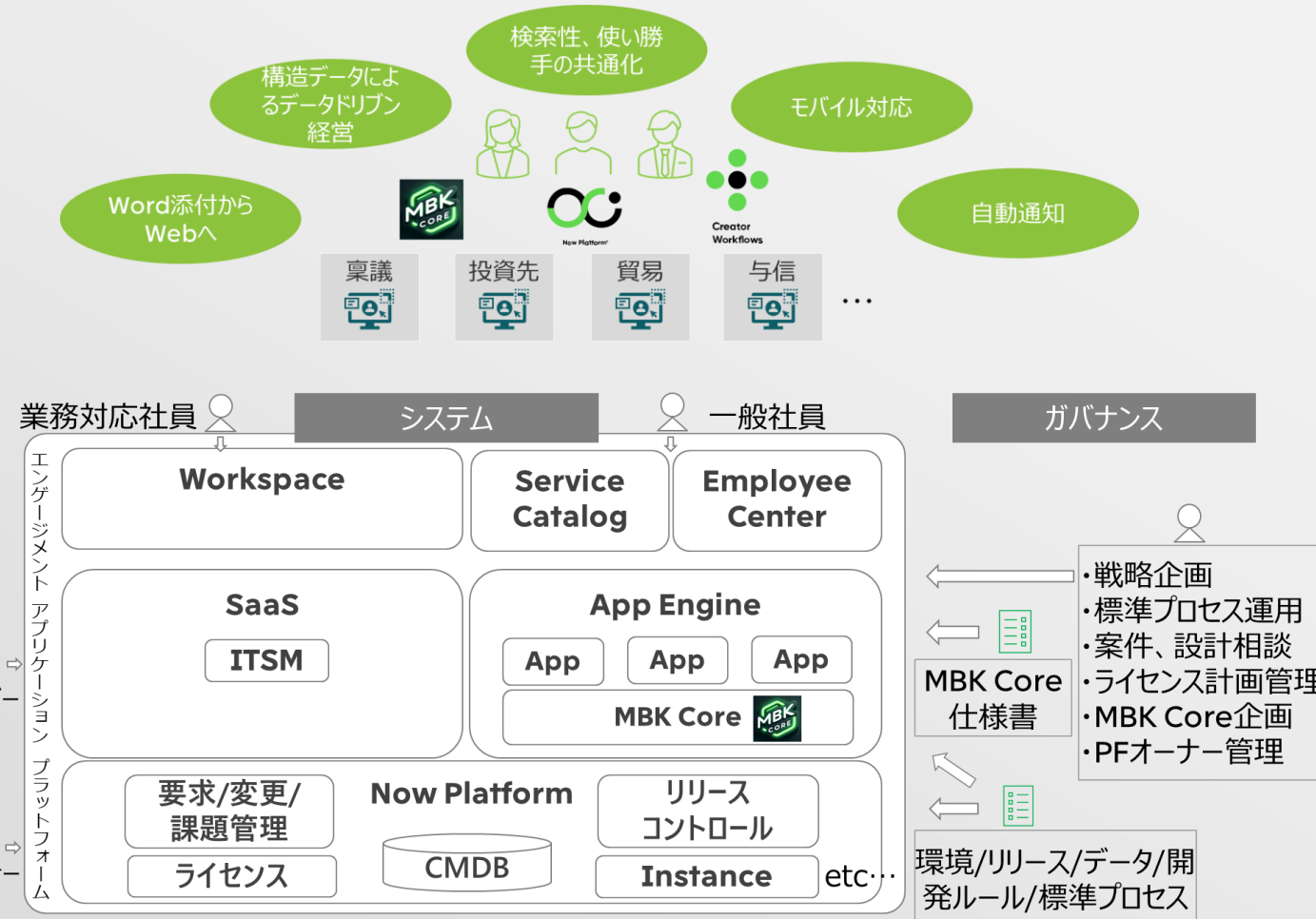
- ◆ 全社システムを中心に標準化を進める領域と営業個別システムをはじめとする柔軟性を確保する領域を両立させ、全体最適なパフォーマンスの発揮と営業現場における競争優位性の確保に資するシステム基盤を提供を目指す。
- ◆ ローコード基盤としてのServiceNowやシステム間のデータ連携等を効率化する為のサービス連携基盤の構築を推進。
- ◆ データはDMPに集約し、それらを活用したダッシュボードポータルやAIの利活用を通じて、データドリブン経営に貢献



デジタル・グランドデザイン

ServiceNow関連

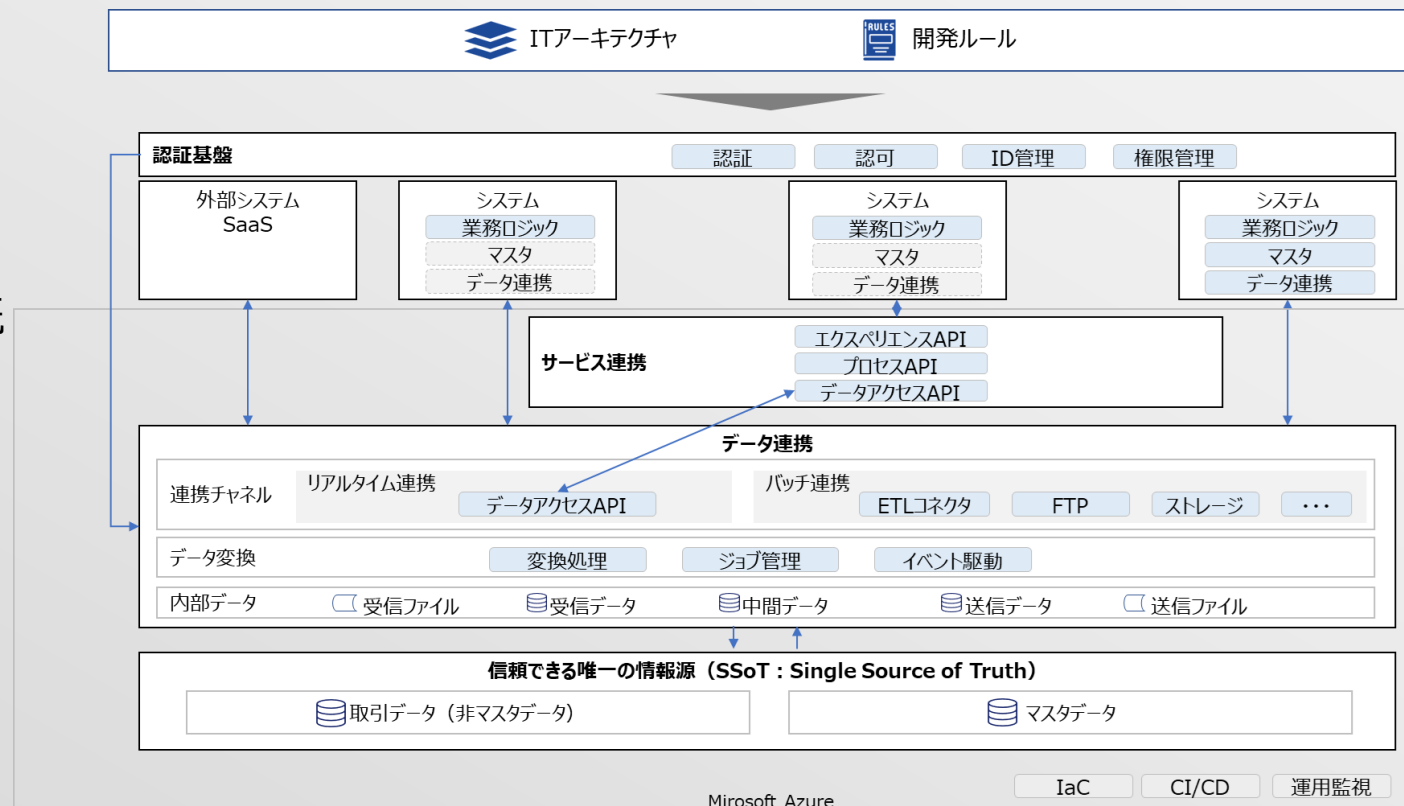
- ◆ 複数のコーポレートシステムの更改をServiceNowのローコード基盤であるApp Engineを活用して実行中。
- ◆ コーポレートシステム更改で共通で利用する機能をMBK Coreとして整備。
- ◆ ServiceNow プラットフォーム上での開発ガバナンスをルール、プロセス、体制面で整備



デジタル・グランドデザイン

サービス連携基盤

- ◆ システム間データ連携に関し標準ルールと共通基盤が存在せず個別開発を行ってきたことにより、機能重複、保守効率低下及びデータ流通性・利便性の低下を招いている為、これらを解決すべくサービス連携基盤を構築。
- ◆ 26/3期1Q時点では、データ連携基盤を介した既存システムとSaaSのAPIデータ連携を実現し、システム間データ連携についてはサービス連携基盤を介することを原則とする。
- ◆ 将来的には「マスタ管理」「認証基盤」などを拡張し、全社システムが共通のデータを参照するだけでなく、業務ロジック（API）も共通化していく。



360° business innovation.

